

2010 年度 修士論文

参加動機が観戦意図へ与える影響に関する研究

ーテニスを事例としてー

A Study on the Influence of Participant Motivation
on Spectating Intention in Tennis

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5009A050-4

霜島 広樹

Simozima, Hiroki

研究指導教員： 木村 和彦 教授

目次

第1章 諸言

| | | |
|-----|-------|---|
| 第1節 | 研究の背景 | 1 |
| 第2節 | 研究の目的 | 3 |

第2章 研究の方法

| | | |
|-----|-------------------------------------|---|
| 第1節 | スポーツ参加者の定義づけ | 4 |
| 第2節 | スポーツ参加動機の抽出(先行研究から) | 4 |
| 第3節 | スポーツ参加動機の精査(ヒアリング調査から) | 6 |
| 第1項 | Sports Motivation 導入の問題点と解決法 | 6 |
| 第2項 | ヒアリング調査方法 | 6 |
| 第3項 | ヒアリング調査結果 | 6 |
| 第4項 | テニス参加動機(Participant Motivation) の構成 | 6 |
| 第5項 | 分析モデルの作成(Model I) | 7 |
| 第6項 | 分析モデルの作成(Model II) | 8 |

第3章 本調査

| | | |
|-----|------------------|----|
| 第1節 | 調査方法①(質問紙の作成) | 10 |
| 第2節 | 調査方法②(調査対象の決定) | 10 |
| 第3節 | 調査方法③(調査期間・調査場所) | 11 |
| 第4節 | 調査方法④(配布・回収方法) | 11 |

第4章 分析結果と考察

| | | |
|-----|-------------------------------|----|
| 第1節 | サンプルの属性とその考察 | |
| 第1項 | 基本的属性 | 12 |
| 第2項 | テニス参加動機とプロテニストーナメント観戦意図の平均値 | 14 |
| 第3項 | 観戦経験の有無とテニス参加動機の関係 | 15 |
| 第2節 | テニス参加動機がプロテニストーナメント観戦意図に与える影響 | |
| 第1項 | Model I の分析(テニスクラブ) | 17 |
| 第2項 | Model I の分析(公共テニスコート) | 19 |
| 第3項 | Model I の分析(テニスサークル) | 21 |
| 第4項 | Model I の分析(まとめ) | 23 |

| | |
|-----------------|----|
| 第3節 Model IIの分析 | 24 |
|-----------------|----|

第5章 結論

| | |
|-----------------|----|
| 第1節 まとめ | 27 |
| 第2節 研究の限界と今後の課題 | 28 |

| | |
|-----------|----|
| 第6章 今後の展望 | 29 |
|-----------|----|

資料

| | |
|--------------------|----|
| 資料A 第1章でのスポーツ観戦者数 | 31 |
| 資料B 第2章でのヒアリング調査結果 | 33 |
| 資料C 質問紙 | 49 |

| | |
|------|----|
| 参考文献 | 52 |
|------|----|

| | |
|----|----|
| 謝辞 | 53 |
|----|----|

第1章 緒言

第1節 研究の背景

21世紀に入り、スポーツの世界にも様々な現象や問題が現れてきている。早川(1997)¹は、スポーツそのものの様相も、単に「する」だけのものから「する・みる」ものとして変化し、スポーツの考え方自体にも大きな変化が起こりつつあると述べている。「みるスポーツ」、すなわち「スポーツ観戦」を対象とした研究は、わが国においても「スポーツ消費者行動」の研究分野で、観戦者についての理解を深める試みが数多く行われてきた。佐野(2007)²は、「国内で開催される国際スポーツイベントに多くの観戦者が増加することで、経済面だけでなく競技の普及や振興の発展が強く期待されうる」と述べている。

一方で、わが国におけるスポーツ参加の状況に目を向けてみると、笹川スポーツ財団のスポーツライフデータ(2008)³において、週2回以上定期的に行われているスポーツは、第1位が散歩、2位がウォーキング、それ以降に、体操、筋力トレーニング、サイクリング、ジョギング、水泳、ゴルフ(練習場)、ヨガ、アクアエクササイズ、なわとび、エアロビクスダンス、硬式テニス、キャッチボール、グラウンドゴルフ、バドミントン、社交ダンス、野球、ゴルフ(コース)、卓球、釣りが続いている。この中で、球技系スポーツに着目してみると、野球・サッカー・ゴルフ・硬式テニス・バドミントン・卓球などは、そのスポーツに参加している人口が、スポーツ全種目の中でも上位20位以内に入っており、これらは、「するスポーツ」としてはメジャーな部類に含まれるスポーツであると言えよう。しかし、これらのスポーツの中で、テニス・バドミントン・卓球などは、そのスポーツに参加している人口は多いものの、「みるスポーツ」としては、観客動員数が1大会あたり2万人を超えるような大会が、年間を通して殆ど存在しないという現状が挙げられる。具体的には、表1にも挙げたように、硬式テニス(以下テニスとする)では2009年度、観客動員数2万人以上を記録した大会(主要大会)が、楽天ジャパンオープン、東レ・パンパシフィックオープン、そしてニッケ全日本選手権だけであり、バドミントンにおいては、ヨネックスジャパンオープン、卓球では1大会も存在しなかった⁴。

1 早川武彦,1997 「対談 多様化するこの社会とスポーツ」無限大 PP14-39

2 佐野昌行,2007 「国際スポーツイベント観戦者の基礎的特性に関する研究」日本体育大学紀要 第36巻2号 pp.231-247.

3 笹川スポーツ財団スポーツライフデータ 2008
http://www.ssf.or.jp/research/life_data_03.html

4 各競技団体ホームページ等から筆者が集計し、巻末付録に詳細は記載した。

表1 競技ごとの主要大会数(2009)

| 競技 | 主要大会数 |
|--------|-------|
| テニス | 3 |
| バドミントン | 1 |
| 卓球 | 0 |
| ゴルフ | 28 |

これら3競技に対し、日本におけるゴルフを例にとると、同様の大会が年間で28大会も存在している。このことから、テニス・バドミントン・卓球などの競技は「するスポーツ」としてはメジャーであるが、「観るスポーツ」としてはマイナーであるということが窺える。

なぜ、これらのスポーツは「するスポーツ」としてはメジャーであるにも関わらず、「観るスポーツ」としてはマイナーなのか。この疑問を解決した上で、これらのスポーツにおける豊富な参加人口を、プロトーナメント等への観戦者へと繋げる方策を検討する事は、このような「参加においてはメジャーであるが、観戦においてはマイナーである」といったスポーツを発展させていく為、非常に重要なテーマの1つであると言えよう。

佐野(2007)⁵より、テニスの観戦者は、その約75パーセントがテニスの経験者であり、「みるスポーツ」よりも「するスポーツ」への関心が、他のスポーツ観戦者に比べて高いといった事実が明らかにされている。また、テニスの試合観戦における満足度は80%と、他のスポーツイベントに比べても高く、このことが「リピーターが多く新規観戦者が少ない」といった現象に繋がっているといった事も、佐野(2007)によって指摘されている。

以上の事から、「スポーツを行っているものを、如何にしてそのスポーツの観戦者へと導くか」という研究は、参加人口は多いが観戦人口が少ないという競技にとって、非常に重要なテーマであると考えられる。しかしながら、わが国においては、松岡ら(2002)の研究のように、スポーツ観戦者のスポーツ観戦動機についての研究は見られるものの、「スポーツ参加者と、スポーツ観戦との関係性」についての研究は見られない。また、海外においても、Tokuyama(2009)⁶やMcDonaldら(2002)⁷がスポーツ参加動機とスポーツ観戦動機の関係性について研究を行っているものの、スポーツ参加動機とスポーツ観戦行動の因果関係や、具体的に、スポーツ参加者をスポーツ観戦者へと導く方法についてまでは言及していない。よって、スポーツ参加とスポーツ観戦との関係をより明確にしていくことは、スポーツマ

⁵ 佐野昌行,2007「国際スポーツイベント観戦者の基礎的特性に関する研究」日本体育大学紀要 第36巻2号

⁶ Tokuyama Sagatomo(2009) Examining different characteristics in consumer motivation for participant sport and spectator sport. Doctoral dissertation in College of Education and Human Development University of Louisville

⁷ Mark A. McDonald, George R. Milne, and JinBae Hong (2002) Motivational Factors for Evaluating sport spectator and participant Markets sports marketing Quarterly pp.100-113

ネジメント研究の発展へ大きく貢献するものであると考えられる。

第2節 研究の目的

本研究の目的は、以下の2点である。

- ①スポーツ参加者における、スポーツ参加動機とスポーツ観戦経験・スポーツ観戦意図の関係性を明らかにする
- ②スポーツ観戦意図を高め、スポーツ参加者をスポーツ観戦者へと導く方法についての提言を行う

第2章 研究の方法

第1節 スポーツ参加者の定義づけ

過去の研究で、「スポーツ参加者」という用語を使用しているものは多い。原田ら(1990)⁸は、スポーツ参加者のライフスタイルを明らかにする上で、スポーツクラブの会員を対象に、調査を行っており、彦次ら(2003)⁹も成人スポーツ参加者の、スポーツ・スペシャリゼーションの類型化にあたり、民間スポーツクラブ会員を対象に調査を行っている。

しかしながら、これらの研究では、スポーツ参加者の定義に関しては述べられておらず、「年に1回しかスポーツを行わない者」を、スポーツ参加者に含めて良いのか否かということに対しては疑問が残る。そこで、本研究ではこの「スポーツ参加者」を、「平均週1回以上、特定のスポーツを行う者」と定義し、研究を進めていくものとする。

第2節 スポーツ参加動機の抽出(先行研究から)

「スポーツ参加動機」をキーワードに先行研究をレビューした結果、大学生などのスポーツ参加動機について触れた研究は幾つか存在した。しかしながら、これらの研究は、老若男女全てのスポーツ参加動機を網羅できているとは言い難い。そこで、本研究では、その点をクリアしていると考えられた McDonald(2002)¹⁰、Tokuyama(2009)¹¹の研究を参考にすることとした。

McDonald(2002)、Tokuyama(2009)によると、スポーツへの参加動機(Sports Motivation)は Risk-Taking、Stress Reduction、Aggression、Affiliation、Social Facilitation、Self-Esteem、Competition、Achievement、Skill Mastery、Aesthetics、Value Development、Self-Actualization、Physical Fitness の13の動機によって構成されている。以下の表2-1にその定義を示した。

⁸ 原田宗彦・菊池秀夫(1990) スポーツ参加者のライフスタイルに関する研究 日本体育学研究,35:241-251.

⁹ 彦次佳・長ヶ原誠・山口泰雄(2003) 成人スポーツ参加者のスポーツ・スペシャリゼーションの類型化に関する研究 日本体育学会大会号,54:220.

¹⁰ Mark A. McDonald, George R. Milne, and JinBae Hong (2002) Motivational Factors for Evaluating sport spectator and participant Markets sports marketing Quarterly pp.100-113

¹¹ Tokuyama Sagatomo(2009) Examining different characteristics in consumer motivation for participant sport and spectator sport

表 2-1 McDonald(2002)における Sports Motivation の定義

| Dimensions | Definition |
|---------------------|--|
| Risk-Taking | The desire to engage in thrill seeking through activities |
| Stress Reduction | The desire to reduce state of anxiety, fear, and tension |
| Aggression | The desire to reduce aggression levels by either activity |
| Affiliation | The desire to connect or associate oneself with a specific social group |
| Social Facilitation | The desire to spend more time with family members, friends, and business associates |
| Self-Esteem | The desire to hold oneself in high regard |
| Competition | The desire of entering into a rivalry and to determine one's ability in relation to others |
| Achievement | The need to accomplish a desired result either by oneself or vicariously through others |
| Skill Mastery | The desire to achieve the goal of performing as well as possible |
| Aesthetics | The need to pursue the beauty, grace, or other artistic characteristics of sport |
| Value Development | The desire to learn and build loyalty, character, and altruism |
| Self-Actualization | The desire to actualize personal potential and to fulfill the need in sport |
| Physical fitness | The desire to feel healthy, increase muscle tone, keep in good shape, and gain greater physical strength |

スポーツ参加動機や、スポーツ参加動機を構成する項目などに関しては、巻末資料 C の最後に日本語にて掲載されているので、そちらも参考にして頂きたい。

第3節 スポーツ参加動機の精査（ヒアリング調査から）

1項 Sports Motivation 導入の問題点と解決法

本研究では、スポーツ参加者として、日本の硬式テニス参加者(以下テニス参加者とする)を対象に議論を進めるが、McDonald(2002)の Sports Motivation を本研究へ導入するにあたり、2つの問題点が考えられる。第1に、「海外の研究が、文化的な相違点を持つ日本に適用すること」に対する懸念である。第2に、「日本のテニスという特定のスポーツに適用する場合の妥当性について確認する必要がある」と考えられる点である。

これらの問題を解決するために、本研究ではテニス参加者(テニスを平均週1回以上行っているもの)を対象に、ヒアリング調査を行い、最終的に「テニス参加動機(Participant Motivation)」の調査項目を構成した。

2項 ヒアリング調査目的・方法

2010年5月4～5日に、東京都渋谷区Tテニスクラブのスクール生またはビジター、株式会社Tに所属するコーチングスタッフ、埼玉県所沢市にあるS公共テニスコート利用者に対して、各々ヒアリング調査を行った。

ヒアリングの目的としては、2点存在した。1点目としては、1項でも述べたように、テニス参加動機(Participant Motivation)の構成を図ることであった。2点目としては、本研究の目的である「スポーツ観戦意図を高め、スポーツ参加者をスポーツ観戦者へと導く方法を明らかにする」ための、分析モデル作成への資料とすることであった。

ヒアリングの内容は、以下の2点であり、取得したデータはその場でフィールドノートに記録した。

A 過去に楽天オープン(旧AIGジャパンオープン)、東レ・パンパシフィックオープン、全日本テニス選手権に観戦へ訪れた経験があるかどうか(観戦経験があるのであれば、観戦にいった動機、理由を聞き、観戦経験がなければ観戦に行かなかった動機、理由について)

B テニスをプレーしている目的

第3項 ヒアリング調査結果

ヒアリング調査の結果、75人からヒアリングデータが取得できた。内訳としては、Tテニスクラブのスクール生またはビジターが38人、株式会社Tに所属するコーチングスタッフが23人、公共コートでのテニス参加者が14人であった。各々の詳細な結果は、巻末の資料に掲載した。ヒアリングの結果からは、表2-1に存在するAggression以外の全ての動機が確認された。

第4項 テニス参加動機(Participant Motivation)の構成

第3項でのヒアリングから、McDonaldの提示する13動機のSport Motivationのうち、Risk-Taking、Stress Reduction、Affiliation、Social Facilitation、Self-Esteem、Competition、Achievement、Skill Mastery、Aesthetics、Value Development、Self-Actualization、Physical Fitness、以上の12動機は確認できた。しかし、Aggressionに関してはヒアリングからは確認できなかった。ヒアリング調査を続けることでAggressionが確認される可能性もあるが、75のヒアリングから1度もAggressionが確認出来なかったことを考えると、Aggressionを強いテニス参加動機としている参加者は少ないと考えられる。また、調査項目として設定しても、日本人には理解されにくい可能性も高いと判断できる。よって、今回の研究からはAggressionの動機を除外して考えることとした。

以上のことから、本研究では日本のテニスにおける参加動機を、Risk-Taking、Stress Reduction、Affiliation、Social Facilitation、Self-Esteem、Competition、Achievement、Skill Mastery、Aesthetics、Value Development、Self-Actualization、Physical Fitnessの12動機とし、これらからテニス参加動機(Participant Motivation)が構成されると仮定することにした。

第5項 分析モデルの作成 (Model 1)

スポーツ参加者をスポーツ観戦者に導くためには、どのような参加動機を持ったスポーツ参加者が、スポーツ観戦者になっているのかを調べる必要がある。そこで、4節で定義したテニス参加動機(Participant Motivation)が、プロテニストーナメント観戦にどのような影響を与えているのかを分析するモデルを作成した。

モデルの作成にあたり、第4節で述べたヒアリング調査の結果¹²から、「観戦に行きたいという意図はあるが、様々な理由があり観戦には行けなかった」というテニス参加者が、多く存在していることが明らかになった。これより、観戦を意図レベル(観戦意図)と行動レベル(観戦経験)に分ける必要性があると判断した。ヒアリング調査の結果からは、「テニス参加動機が観戦意図に影響を与え、そして観戦意図が観戦経験の有無に影響を与えている可能性がある」と仮説を立てるのが妥当であった。

その点を踏まえた上で、まず、テニス参加動機が観戦意図(Spectating Intention)に与える影響を分析するモデルの作成を行った(図2-1)。

¹² 巻末資料 サンプル63、64、65、68など

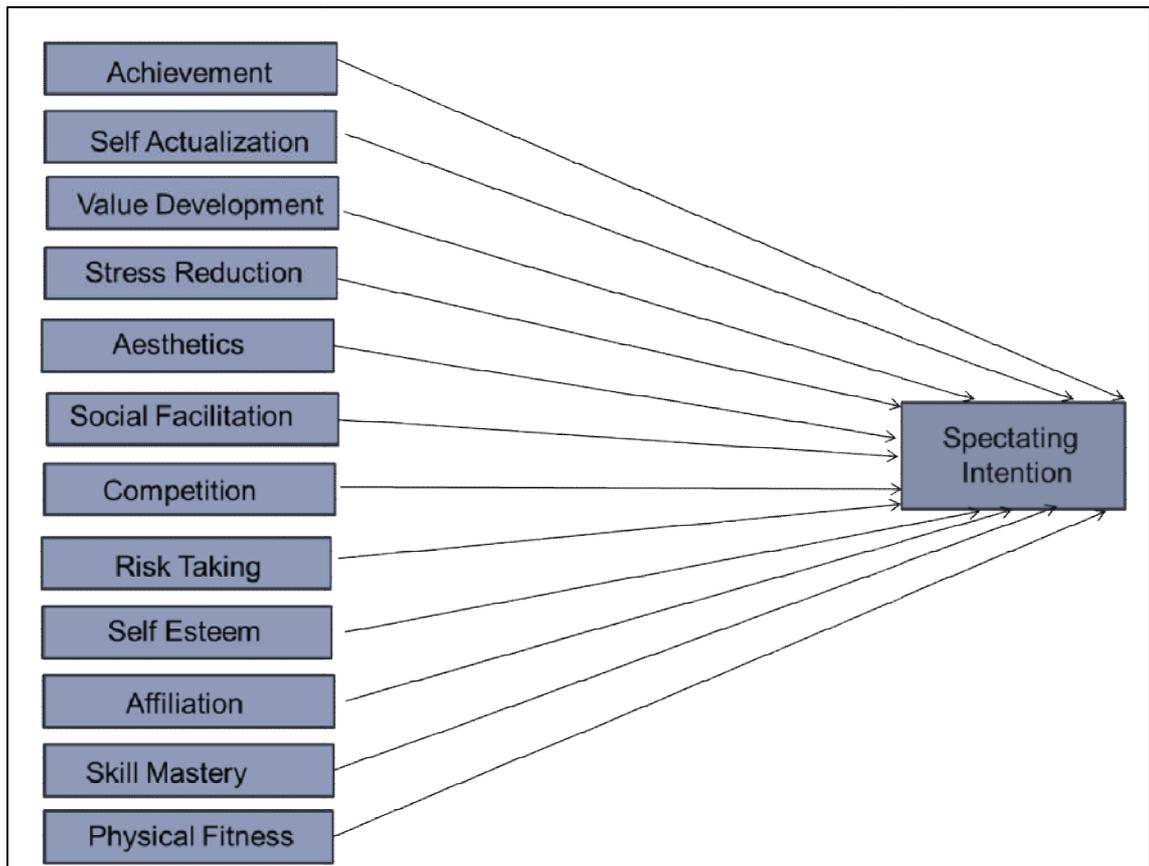


図 2-1 Model I

このモデルを分析することによって、「どのテニス参加動機が観戦意図に影響を与えているのか」を把握することが可能となる。具体的なモデルの検証に関しては、第 4 章で行っていくものとする。なお本研究においては、プロテニストーナメントに関しては、日本国内のトーナメントで最もグレードの高い「楽天ジャパンオープン」「東レ・パンパシフィックオープン」に限定し、テニス観戦を「楽天ジャパンオープン、もしくは東レ・パンパシフィックオープンを試合会場で直接観ること」と定義した。

第 6 項 分析モデルの作成 (Model II)

第 5 項では、「プロテニストーナメント観戦意図に影響を及ぼすテニス参加動機とは何か」という事を分析するモデル(Model I)を作成した。本項では、ヒアリング調査の結果から、もう 1 つのモデルを作成した。

ヒアリングからは、「自分が試合に出たりするので、技術を真似したり、参考にしたりする為にプロの試合を見にいった」というようなデータ¹³が確認されている。これより、「トー

¹³ 巻末資料 サンプル 8、44 など

ナメント参加経験がテニス参加動機に影響を与えている可能性がある」という仮説を立てることが出来る。これに第5項で記述した内容を踏まえ、「トーナメント参加が、スポーツ参加動機、及びスポーツ観戦意図に影響を与えている可能性がある」ということを意味するモデルを作成した(図2-2)。

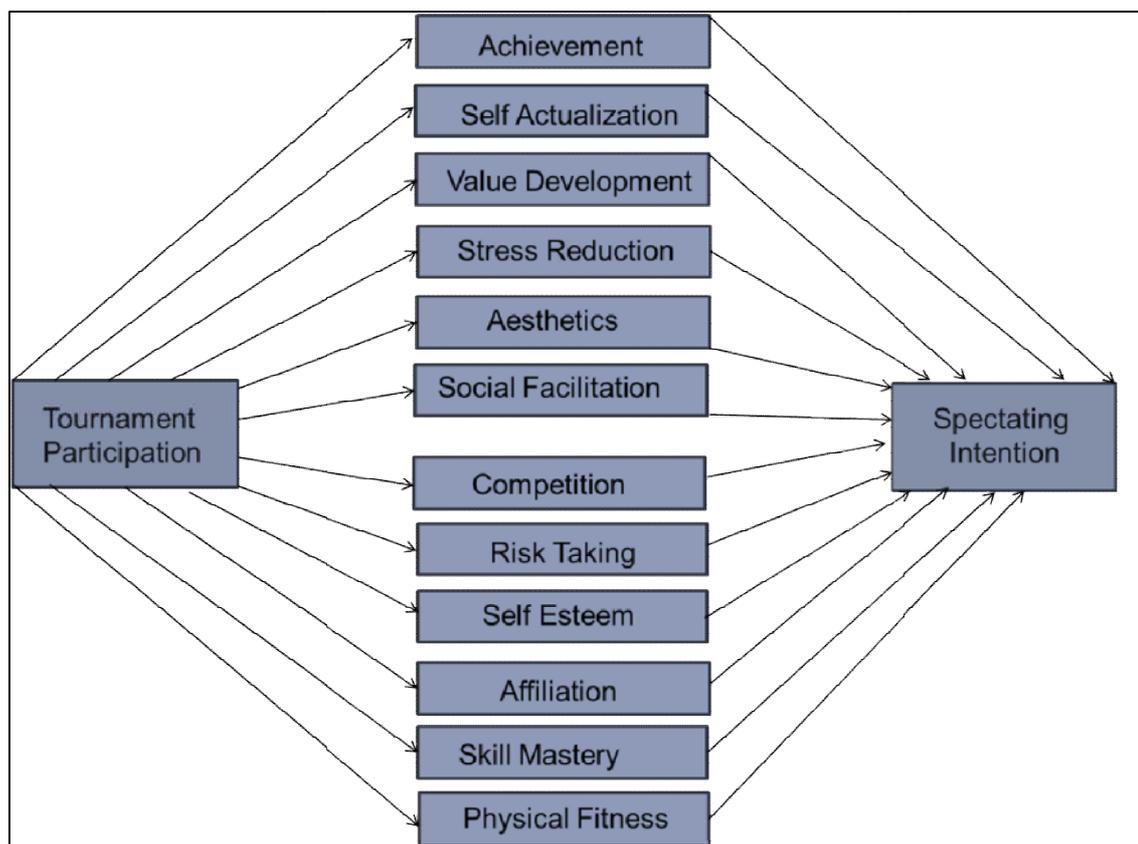


図 2-2 Model II

このモデルは「テニス参加者のトーナメント参加頻度(Tournament Participation)の高さが、テニス参加動機に影響を与え、そのテニス参加動機がテニス観戦意図に影響を与えている」ということを表している。モデリングに関しては、小塩(2008)¹⁴を参考にした。このモデルの分析に関しては、第4章で行うものとする。

¹⁴ 小塩真司(2008) はじめての共分散構造分析-AMOSによるパス解析 東京図書

第3章 本調査

第1節 調査方法①（質問紙の作成）

第2章で作成したモデルを分析する為に、本調査では質問紙調査を実施することとした。質問紙の内容としては、以下の4区分から構成される。

A 基本的属性(性別、年齢、職業、テニス参加頻度、大会参加頻度)

B テニス参加動機

C テニストーナメント観戦意図

D テニストーナメント観戦経験(本年度に限定)

A 基本的属性については、テニス参加者の属性を把握するために導入した。「大会参加頻度」の項目を付け加えたのは、ヒアリングの結果から「自分がテニスのトーナメントに参加する人は、自分の試合に観戦を生かしたいから会場に足を運ぶ」という内容が確認された為、観戦への1つのトリガーとなりうると考えて項目としてプラスした。

B テニス参加動機については、Tokuyama(2008)、McDonald(2002)で使われた質問紙を参考にした。彼らの使用した質問紙は、英語表記であったため、第2章で挙げた参加動機の定義に沿うよう、慎重に和訳を行った。早稲田大学スポーツ経営学研究室の大学院生数名によって、意味が分かりにくい点があるかどうかといった点を確認し、問題がある部分は修正を行った。

C テニストーナメント観戦意図に関しては、「東レ・パンパシフィックオープンや楽天ジャパンオープンといったトッププレーヤーの集まる大会をどの程度見に行きたいか」を、7段階尺度にて質問した。

D テニストーナメント観戦経験については、2010年度東レ・パンパシフィックオープン、若しくは楽天ジャパンオープンを、スタジアムで観戦したかどうかを項目として設定した。2010年に限定した理由としては、テニス参加動機に関して現在のものを聞くことになるので、テニス観戦に関しても現在のものを聞かなければ、論理的整合性がとれないと判断したからである。

第2節 調査方法②（調査対象の決定）

調査対象を考える上で、まず母集団について考える必要があった。本研究では調査対象となるテニス参加者を、平均週1回以上テニスを行うもの」と定義した。よって母集団は「日本において、平均週1回テニスを行うすべてのもの」ということになる。統計的な分析を行

う上で、この母集団に対してのサンプルを作ることが必要となる。しかし、日本において、平均週 1 回テニスを行うすべてのものの具体的なリストがない以上、正確なサンプリングは不可能である。

そこで、本研究においてはこの母集団を、「日本におけるテニスクラブでのテニス参加者」、「日本における公共テニスコートでのテニス参加者」、そして「日本における学生のテニスサークルでのテニス参加者」と分割して考えるものとした。このように母集団を分割すれば、「日本におけるテニスクラブでのテニス参加者」のサンプルは、日本のテニスクラブにてアンケートを採ることによってある程度の論理的整合性が保たれる。当然、日本においては、テニスクラブ、公共テニスコート、学生のテニスサークル以外にもテニス参加を行える場所は存在する。しかし、研究の限界として、今回は上記 3 つのテニス環境に限定して行うものとした。

第 3 節 調査方法③（調査期間・調査場所）

調査期間は 2010 年 10 月 11 日～11 月 11 日とした。この期間に定めた理由としては、まず 2010 年度・楽天ジャパンオープンが全日程を終了させるのが 2010 年 10 月 10 日であったということが挙げられる(東レ・パンパシフィックオープンは 9 月末に終了)。調査期間が長くなると、先ほど述べたように、「観戦は過去のことだが、参加は現在」というズレが生じてくるため、調査期間を 1 ヶ月と定めた。

また、配布場所に関しては東京都渋谷区にある T テニスクラブ、埼玉県所沢市にある S 公共コート、そして M 大学のテニスサークル(T テニスサークルと A テニスサークル)に対し、それぞれ行った。

第 4 節 調査方法④（質問紙配布法・回収方法）

質問紙の配布に関しては、筆者の自己紹介をした上で、早稲田大学のボールペンを添えて直接手渡しをした。回答はその場で行ってもらい、記入終了後は速やかに回収を行った。記入に関しての疑問点、記入漏れなどの不都合が生じた場合は、筆者がその場で対応した。時間等の関係で、どうしても記入が難しいものに関しては、後日改めて回収を行った。

第4章 分析結果と考察

第1節 サンプルの属性とその考察

第1項 基本的属性

T テニスクラブで行った調査の結果、172 の回答が得られた。有効標本数は 170 で、有効回答率は 98.8%であった。それらのサンプルの属性は以下のようにになっている。

表 4-1 基本属性(T テニスクラブ)

| | n | % | | n | % |
|---------|----|------|--------|----|------|
| 性別 | | | 活動頻度 | | |
| 男性 | 86 | 50.6 | 週 1 回 | 70 | 41.2 |
| 女性 | 84 | 49.4 | 週 2 回 | 32 | 18.8 |
| NA. | 0 | 0 | 週 3 回 | 20 | 11.8 |
| | | | 週 4 回 | 16 | 9.4 |
| 年齢 | | | 週 5 以上 | 32 | 18.8 |
| 10 歳代 | 17 | 10.0 | | | |
| 20 歳代 | 34 | 20.0 | 職業 | | |
| 30 歳代 | 45 | 26.5 | 会社員 | 63 | 37.1 |
| 40 歳代 | 45 | 26.5 | 公務員 | 2 | 1.2 |
| 50 歳代 | 14 | 8.2 | 管理職・経営 | 6 | 3.5 |
| 60 歳代 | 12 | 7.1 | 自営業 | 10 | 6 |
| 70 歳代 | 3 | 1.8 | テニス関係 | 26 | 15.3 |
| | | | 自由業 | 2 | 1.2 |
| 大会出場頻度 | | | 主婦専業 | 27 | 15.9 |
| 年 1 回以上 | 92 | 54.1 | 学生 | 8 | 4.7 |
| 無し | 78 | 45.9 | 中高生 | 12 | 7.1 |
| | | | その他 | 14 | 8.3 |

性別に関しては、男女ともほぼ同数の結果となった。年代に関しては、30、40 代が多く、70 代はほとんど見られなかった。活動頻度に関しては、週 1 回だけ行っているものが 41.2%と全体の半分近くを占めていた。

一方で、公共テニスコートで行った調査の結果、81 の回答が得られた。有効標本数は 75 であり、有効回答率は 92.6%であった。無効となったサンプルのうち 3 つは、プレー頻度

が週 1 回未満であったので除外した。サンプルの属性は以下の通りである。

表 4-2 基本属性(公共テニスコート)

| | | n | % | | | n | % |
|--------|---------|------|------|------|--------|------|------|
| 性別 | 男性 | 22 | 29.3 | 活動頻度 | 週 1 回 | 13 | 17.3 |
| | 女性 | 53 | 70.3 | | 週 2 回 | 24 | 32.0 |
| | NA. | 0 | 0 | | 週 3 回 | 24 | 32.0 |
| 年齢 | | | | | 週 4 回 | 7 | 9.3 |
| | 10 歳代 | 0 | 0 | | 週 5 以上 | 7 | 9.3 |
| | 20 歳代 | 1 | 1.3 | 職業 | 会社員 | 6 | 8.0 |
| | 30 歳代 | 2 | 2.7 | | 公務員 | 3 | 4.0 |
| | 40 歳代 | 20 | 26.7 | | 管理職・経営 | 1 | 1.3 |
| | 50 歳代 | 18 | 24.0 | | 自営業 | 1 | 1.3 |
| | 60 歳代 | 19 | 25.3 | | テニス関係 | 1 | 1.3 |
| 70 歳代 | 12 | 20.0 | 自由業 | | 2 | 2.7 | |
| 大会出場頻度 | | | | | 主婦専業 | 35 | 46.7 |
| | 年 1 回以上 | 31 | 41.3 | 学生 | 0 | 0 | |
| | 無し | 44 | 58.7 | 中高生 | 0 | 0 | |
| | | | | その他 | 26 | 34.7 | |

公共テニスコートにおいては、プレーしているものの殆どが 40 歳代～70 歳代であり、専業主婦、無職などと職業欄に回答したものが多かった。

最後に、M 大学のテニスサークルでテニスをプレーしているものを対象として行った調査の結果であるが、トータルで 51 本の回答が得られた。有効標本数は 48 本で、有効回答率は 96.0%であった。3 本のサンプルは、プレー頻度が週 1 回未満であった為、除外した。サンプルの属性は以下のようにになっている。

表 4-3 基本属性(テニスサークル)

| | | n | % | | | n | % |
|--------|---------|----|------|------|--------|-----|------|
| 性別 | 男性 | 32 | 66.7 | 活動頻度 | 週 1 回 | 9 | 18.8 |
| | 女性 | 16 | 33.3 | | 週 2 回 | 15 | 31.3 |
| | NA. | 0 | 0 | | 週 3 回 | 15 | 31.3 |
| 年齢 | | | | | 週 4 回 | 4 | 8.3 |
| | 10 歳代 | 8 | 16.7 | | 週 5 以上 | 5 | 10.4 |
| | 20 歳代 | 40 | 83.3 | 職業 | 会社員 | 0 | 0 |
| | 30 歳代 | 0 | 0 | | 公務員 | 0 | 0 |
| | 40 歳代 | 0 | 0 | | 管理職・経営 | 0 | 0 |
| | 50 歳代 | 0 | 0 | | 自営業 | 0 | 0 |
| | 60 歳代 | 0 | 0 | | テニス関係 | 0 | 0 |
| 70 歳代 | 0 | 0 | 自由業 | | 0 | 0 | |
| 大会出場頻度 | | | | | 主婦専業 | 0 | 0 |
| | 年 1 回以上 | 39 | 81.3 | 学生 | 48 | 100 | |
| | 無し | 8 | 16.7 | 中高生 | 0 | 70 | |
| | | | | その他 | 0 | 0 | |

性別に関して、若干男性のサンプルの方が多結果となった。年代や職業の結果は、学生ということを考慮すれば当然と言えるだろう。活動頻度に関しては、公共テニスコートでのそれと、週 2、3 回プレーするものが多いといった点で、似た傾向が出ていた。

第 2 項 テニス参加動機とプロテニストーナメント観戦意図の平均値

本項では、テニスをプレーする環境の違い(T テニスクラブ、公共テニスコート、テニスサークル)によって、テニス参加動機と観戦意図の平均値を算出した。分析には SPSS ver.17.0 を用いた。結果は以下の表 4-4 の通りである。

表 4-4 テニス参加動機と観戦意図の平均値

| | テニス参加者 (T クラブ) | | テニス参加者 (公共コート) | | テニス参加者 (サークル) | |
|---------------------|----------------|------|----------------|-------|---------------|------|
| | Mean | S.D. | Mean | S.D. | Mean | S.D. |
| Achievement | 4.74 | 1.32 | 4.87 | 0.971 | 4.63 | 1.56 |
| Self- Actualization | 4.15 | 1.41 | 4.53 | 0.919 | 3.78 | 1.64 |
| Value Development | 4.98 | 1.21 | 5.11 | 0.791 | 4.96 | 1.17 |
| Stress Reduction | 4.78 | 1.34 | 4.96 | 1.12 | 4.23 | 1.50 |
| Aesthetics | 4.49 | 1.21 | 4.60 | 0.825 | 4.10 | 1.30 |
| Social Facilitation | 5.21 | 1.10 | 5.38 | 0.795 | 5.31 | 1.03 |
| Competition | 4.55 | 1.38 | 4.44 | 0.981 | 4.78 | 1.61 |
| Risk Taking | 3.00 | 1.28 | 3.44 | 1.08 | 2.79 | 1.14 |
| Self- Esteem | 3.94 | 1.62 | 3.78 | 1.35 | 3.78 | 1.73 |
| Affiliation | 4.21 | 1.25 | 4.57 | 0.997 | 4.59 | 1.48 |
| Skill Mastery | 5.32 | 1.15 | 5.16 | 0.877 | 5.00 | 1.29 |
| Physical Fitness | 5.14 | 1.49 | 5.66 | 0.952 | 4.23 | 1.38 |
| 観戦意図 | 5.54 | 1.76 | 4.99 | 1.56 | 5.38 | 1.90 |

第 3 項 観戦経験の有無とスポーツ参加動機の関係

本項では、観戦経験とテニス参加動機の関係について考察していく。今回取得できたサンプルの中で、T テニスクラブでのサンプルは、観戦 57、非観戦 113 という、比較的バランスの良いものであった。

表 4-5 2010 年度、ジャパンオープン・東レ観戦経験の有無

| | 度数 | パーセント | 有効パーセント | 累積パーセント |
|--------|-----|-------|---------|---------|
| 観戦経験なし | 113 | 66.5 | 66.5 | 66.5 |
| 観戦経験あり | 57 | 33.5 | 33.5 | 100.0 |
| 合計 | 170 | 100.0 | 100.0 | |

しかし、公共テニスコートのサンプルに関しては、観戦 11、非観戦 66、サークルにおいては観戦 3、非観戦 45 と、観戦した者のサンプル数が統計的検定に耐えるだけの量にならなかった為、本項ではテニスクラブでのサンプルのみを対象として議論を進める。

以下の表 4-6 は、テニス観戦経験がある者と無い者で、テニス参加動機がどの程度異なるのかということを検討したものである。分析手法としては、対応のない t 検定を用い、分析用ソフトとして SPSS.ver17.0 を用いた。

表 4-6 t 検定結果(観戦経験×テニス参加動機)

| | 観戦経験 有り | | 観戦経験 無し | | t 値 |
|---------------------|---------|-------|---------|------|---------|
| | Mean | S.D. | Mean | S.D. | |
| Achievement | 5.11 | 1.19 | 4.56 | 1.34 | 2.60** |
| Self-Actualization | 4.48 | 1.41 | 3.98 | 1.38 | 2.20** |
| Value Development | 5.32 | 1.05 | 4.80 | 1.26 | 2.65*** |
| Stress Reduction | 4.85 | 1.51 | 4.74 | 1.24 | 0.488 |
| Aesthetics | 5.00 | 1.13 | 4.24 | 1.17 | 4.01*** |
| Social Facilitation | 5.57 | 1.12 | 5.04 | 1.07 | 2.98*** |
| Competition | 4.97 | 1.08 | 4.35 | 1.47 | 3.15*** |
| Risk Taking | 3.39 | 1.42 | 2.81 | 1.16 | 2.62** |
| Self Esteem | 4.35 | 1.53 | 3.73 | 1.63 | 2.38** |
| Affiliation | 4.47 | 1.23 | 4.08 | 1.25 | 1.94* |
| Skill Mastery | 5.78 | 0.91 | 5.09 | 1.19 | 3.83*** |
| Physical Fitness | 4.95 | 1.52 | 5.23 | 1.46 | -1.13 |
| 観戦意図 | 6.58 | 0.680 | 5.01 | 1.90 | 7.86*** |

***p<0.01 **p<0.05 *p<0.1

参加動機の中で、2010 年度、ジャパンオープンもしくは東レ・パンパシフィックオープンの観戦を行った者の方が、Stress Reduction と Physical Fitness を除く全ての動機に関して、有意に高いという結果になった。ここから、Stress Reduction と Physical Fitness の強さは観戦には全く関与していないということが窺える。つまり、Stress Reduction と Physical Fitness を主なテニス参加動機としているテニス参加者は、観戦に行く可能性は極めて低いと言えよう。

第2節 テニス参加動機がプロテニストーナメント観戦意図に与える影響

本節では、観戦意図に影響を与えているテニス参加動機について、第2章で作成した Model I を重回帰分析によって分析することにより明らかにしていく。

第1項 Model I (テニスクラブ)

SPSS.ver17.0 を用いて、モデルを分析した所、以下のような結果となった。モデルの適合度に関しては、表 4-7 にあるように、調整済み $R^2=0.332$ となり、表 4-8 において有意確率 $P<0.05$ であることより、この R^2 乗値の妥当性が確認できた。よって、観戦意図の約 33.2%が、スポーツ参加動機からだけで説明できることが示された。

表 4-7 観戦意図×参加動機モデルの適合度(テニスクラブ)

| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 標準偏差推定値 の誤差 |
|-------------------|------|-----------|----------------|
| .616 ^a | .379 | .332 | 1.437 |

表4-8 モデル適合度の有意確率(テニスクラブ)

| | 平方和 (分散成分) | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|---------------|------------|-----|--------|-------|-------------------|
| 回帰 | 198.045 | 12 | 16.504 | 7.991 | .000 ^a |
| 残差 (分散分析) | 324.244 | 157 | 2.065 | | |
| 合計 (ピボットテーブル) | 522.288 | 169 | | | |

表4-9 テニス参加動機の観戦意図への影響力(テニスクラブ)

| | 標準化されていない係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|---------------------|-------------|--------|-------|--------|------|
| | B | 標準偏差誤差 | ベータ | | |
| (定数) | .333 | .720 | | .463 | .644 |
| Achievement | -.086 | .191 | -.064 | -.450 | .653 |
| Self-Actualization | -.155 | .131 | -.124 | -1.186 | .237 |
| Value Development | .124 | .174 | .086 | .717 | .475 |
| Stress Reduction | -.039 | .107 | -.030 | -.369 | .713 |
| Aesthetics | .088 | .154 | .061 | .574 | .567 |
| Social Facilitation | .153 | .149 | .097 | 1.023 | .308 |
| Competition | .160 | .136 | .125 | 1.175 | .242 |
| Risk Taking | -.053 | .127 | -.038 | -.414 | .680 |
| Self Esteem | .221 | .115 | .203 | 1.922 | .056 |
| Affiliation | -.008 | .154 | -.006 | -.052 | .959 |
| Skill Mastery | .560 | .159 | .367 | 3.516 | .001 |
| Physical Fitness | .048 | .090 | .040 | .529 | .597 |

第2章の図2-1で提示したモデルの矢印の強さを表したものが、表4-9の標準化係数の欄に記載されている。この値が大きければ大きいほど、矢印の強さも大きいと言える。表4-9では、Skill Masteryが最もその値が大きく、次にSelf Esteemの値が大きい。この2つは統計的にも有意性が確認できる為、「Skill MasteryやSelf-Esteemが高ければ、そこに比例して観戦意図も高くなる」と解釈することが出来る。これを図示したものが、下記の図4-1になる。

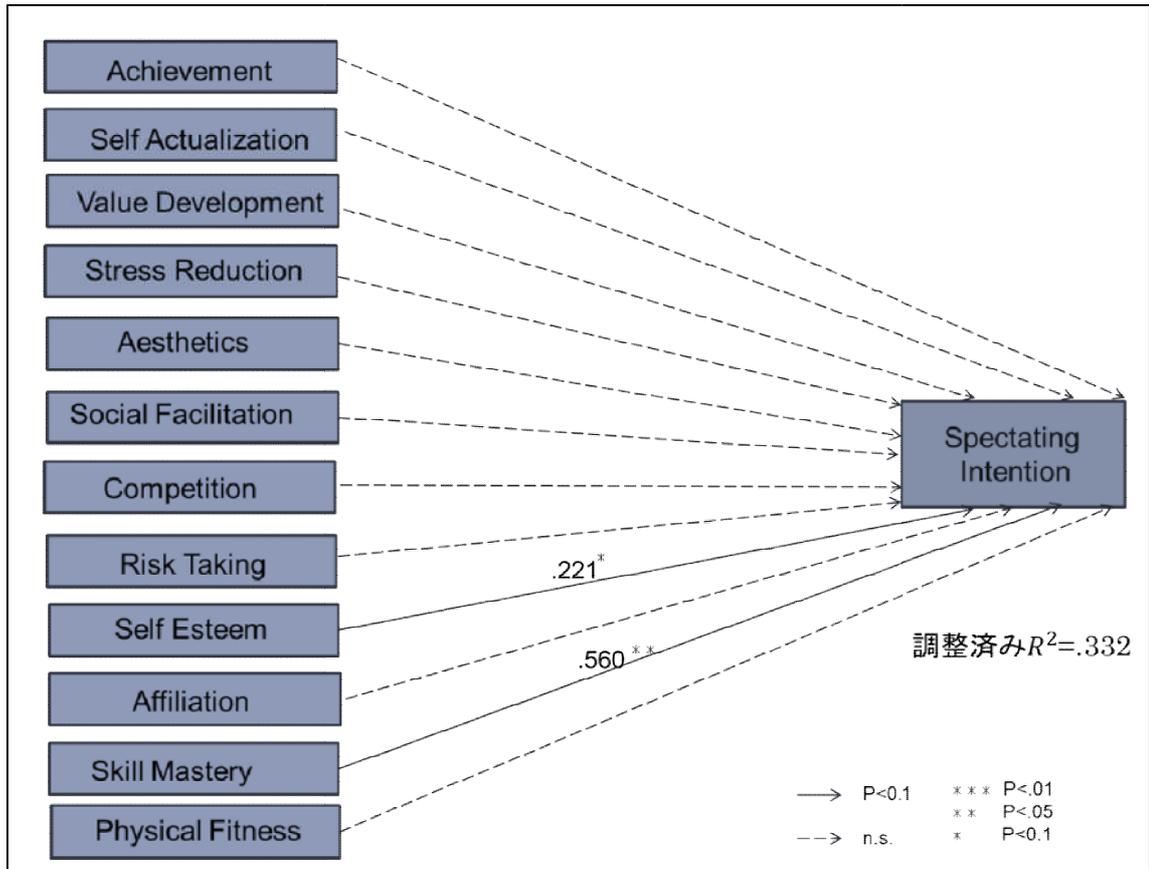


図4-1 参加動機が観戦意図に与える影響力(テニスクラブ)

第2項 Model I の分析 (公共テニスコート)

公共テニスコートに関しても、テニスクラブと同様の分析を行った。しかし、表4-11に示したように調整済み R^2 の有意確率が0.099と5%水準を満たすことが出来ず、あまり説明力があるモデルとは言えない結果となった。

表4-10 観戦意図×参加動機モデルの適合度(公共テニスコート)

| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 標準偏差推定値 の誤差 |
|-------------------|------|-----------|----------------|
| .496 ^a | .246 | .098 | 1.492 |

表4-11 モデル適合度の有意確率(公共テニスコート)

| モデル | 平方和 (分散成分) | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|---------------|------------|-----|-------|-------|-------------------|
| 回帰 | 44.269 | 12 | 3.689 | 1.658 | .099 ^a |
| 残差 (分散分析) | 135.731 | 61 | 2.225 | | |
| 合計 (ピボットテーブル) | 180.000 | 73 | | | |

表4-12 参加動機の観戦意図への影響力(公共テニスコート)

| モデル | | 標準化されていない係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|-----|---------------------|-------------|--------|-------|--------|------|
| | | B | 標準偏差誤差 | ベータ | | |
| 1 | (定数) | 4.485 | 1.561 | | 2.873 | .006 |
| | Achievement | -.068 | .307 | -.042 | -.222 | .825 |
| | Self-actualization | .425 | .333 | .248 | 1.279 | .206 |
| | Value develop | -.152 | .418 | -.077 | -.364 | .717 |
| | Stress Reduction | .010 | .216 | .008 | .048 | .962 |
| | Aesthetics | .420 | .374 | .222 | 1.122 | .266 |
| | Competition | -.172 | .266 | -.108 | -.646 | .521 |
| | Risk Taking | -.444 | .242 | -.302 | -1.833 | .072 |
| | Self-Esteem | .002 | .255 | .002 | .008 | .994 |
| | Social Facilitation | -.547 | .398 | -.279 | -1.374 | .175 |
| | Affiliation | .301 | .303 | .192 | .992 | .325 |
| | Skill Mastery | .546 | .321 | .306 | 1.698 | .095 |
| | Physical Fitness | -.221 | .274 | -.135 | -.807 | .423 |

公共テニスコートにおいては、12のテニス参加動機のうちSkillMasteryのみ、10%水準で有意性が確認された。

第3項 Model I の分析 (テニスサークル)

テニスサークルに関しても、第1項、第2項と同様の分析を行った。モデルの適合度は以下の表4-13のようになった。

表4-13 観戦意図×参加動機モデルの適合度(テニスサークル)

| R | R ² 乗 | 調整済み R ² 乗 | 標準偏差推定値 の誤差 |
|-------------------|------------------|-----------------------|----------------|
| .713 ^a | .508 | .340 | 1.542 |

$R^2 = 0.508$ と高い数値になったが、おそらくサンプル数の少なさに対する説明変数の多さなどの原因から、調整済み $R^2 = 0.340$ となった。表4-14にあるように、この値は $P < 0.05$ で統計的有意性が確認された。よって、観戦意図の約34%をテニス参加動機だけで説明できることが示された。

表4-14 モデル適合度の有意確率

| | 平方和 (分散成分) | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|---------------|------------|-----|-------|-------|-------------------|
| 回帰 | 86.005 | 12 | 7.167 | 3.013 | .005 ^a |
| 残差 (分散分析) | 83.245 | 35 | 2.378 | | |
| 合計 (ピボットテーブル) | 169.250 | 47 | | | |

12の参加動機のうちで、統計的有意性が確認されたものは、Skill Mastery、Achievement、Value Developmentであった。

表4-15 参加動機の観戦意図への影響力(テニスクラブ)

| | 標準化されていない係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|---------------------|-------------|--------|-------|--------|------|
| | B | 標準偏差誤差 | ベータ | | |
| (定数) | 1.465 | 1.441 | | 1.017 | .316 |
| Achievement | .453 | .265 | .373 | 1.711 | .096 |
| Self-Actualization | .154 | .216 | .133 | .715 | .479 |
| Value Development | -.650 | .382 | -.402 | -1.703 | .097 |
| Stress Reduction | .346 | .205 | .273 | 1.684 | .101 |
| Aesthetics | -.008 | .279 | -.005 | -.027 | .979 |
| Social Facilitation | -.207 | .391 | -.112 | -.529 | .600 |
| Competition | .022 | .255 | .019 | .086 | .932 |
| Risk Taking | -.249 | .284 | -.150 | -.875 | .388 |
| Self-Esteem | .000 | .247 | .000 | .002 | .998 |
| Affiliation | .110 | .299 | .086 | .368 | .715 |
| Skill Mastery | .693 | .275 | .470 | 2.522 | .016 |
| Physical Fitness | .175 | .205 | .127 | .855 | .398 |

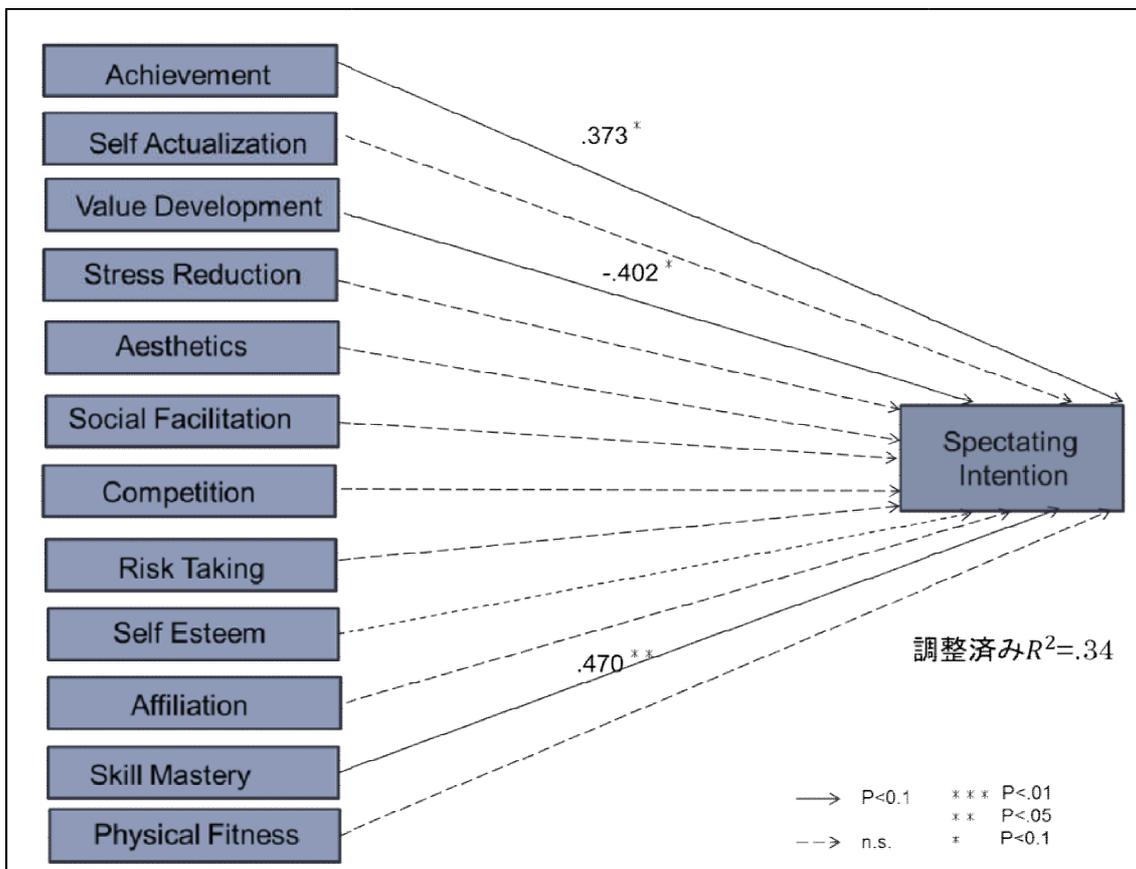


図 4-2 参加動機が観戦意図に与える影響力(テニスサークル)

第 4 項 Model I の分析 (まとめ)

本節では、テニスクラブ、公共テニスコート、そしてテニスサークルにおけるテニス参加者に対し、従属変数を観戦意図、説明変数を参加動機として、各々重回帰分析を行った。

結果として、Skill Mastery はその全てにおいて統計的有意性が確認され、同時に観戦意図に対し高い影響力を持っていることが確認された。つまり、技術的に向上したいと思うことによって、東レ・パンパシフィックオープンやジャパンオープンなどの観戦意図は高まるということが明らかとなった。

テニスサークルでの結果からは、Achievement や Value Development も観戦意図に影響を与える可能性も示唆されたが、サンプル数などの問題から、今後更なる検証が必要であろう。

第3節 Model IIの分析

第4章では、「スポーツの観戦意図に影響を及ぼすスポーツ参加動機とは何か」という事について検討してきた。結果として、スポーツ参加動機の中の幾つかの動機は観戦意図に影響を及ぼすという事が確認できた。

これらのスポーツ観戦意図に影響を及ぼす動機を高めることが出来れば、観戦意図も高まり、観戦行動に繋がっていくと推察できる。しかし、第4章ではその具体的手法を検証する所までは踏み込まなかった。そこで、本章ではそのスポーツ参加動機を如何にして高めていくか、その具体的手法について検討を行うこととする。

第2章では、ヒアリングの結果から、「自分が試合に出るので、その参考にしたい」といったデータが存在したことより、「トーナメント参加経験が、観戦意図に何らかの影響を与えている可能性がある」という仮説を立てた。そこで、トーナメント経験の有無が、スポーツ参加動機、及び観戦意図に影響を与えているかどうかを、本研究にて取得したテニスクラブでのデータを用いて、共分散構造分析にて分析することとした。

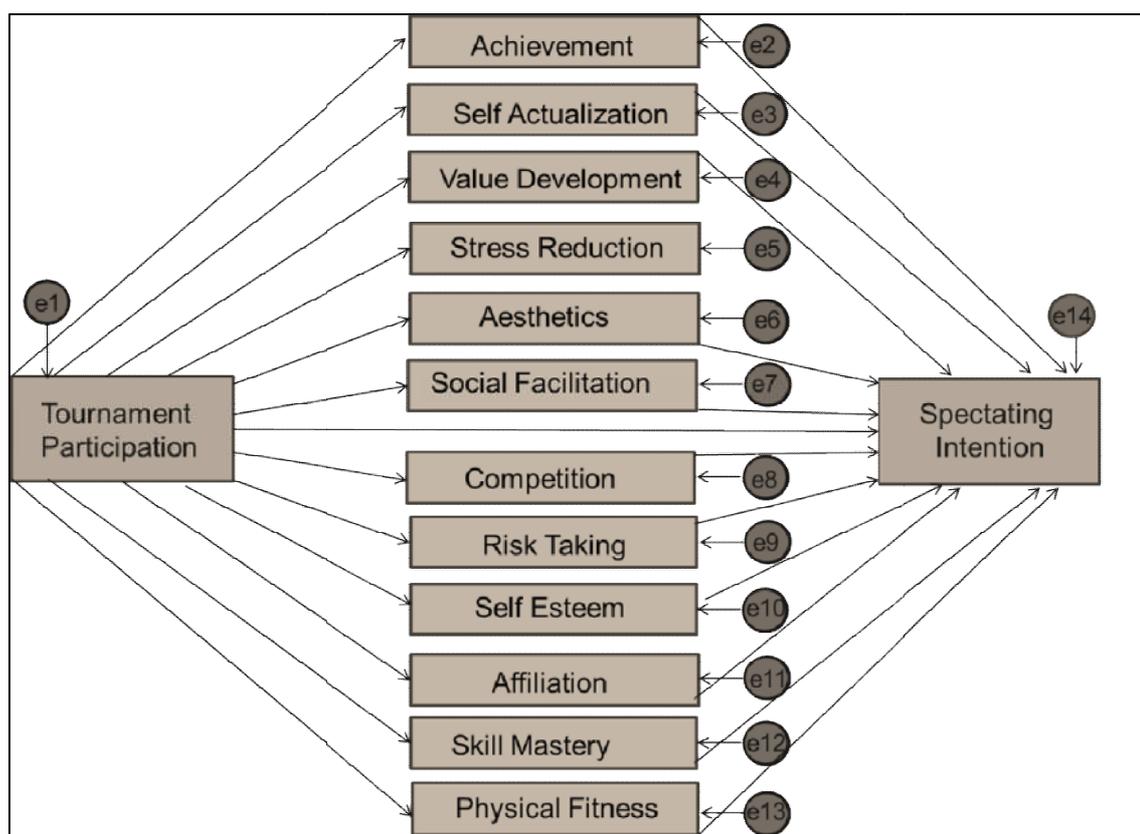


図 5-1 Model II (SEM)

分析に先立ち、上の図 5-1 のような共分散構造モデルを作成した。モデル作成に関しては、第2章で作成した図 2-1 に対し、小塩(2008)を参考にして、各々の観測変数に誤差変数

(e1~e14)を付け、誤差変数同士の相関関係も考慮されるようモデリングを行った。また、トーナメント参加頻度から観戦意図への直接効果もモデルに反映させた。分析用ソフトには AMOS17.0 を用いて分析を行い、結果は以下の図 6-2 のようになった。

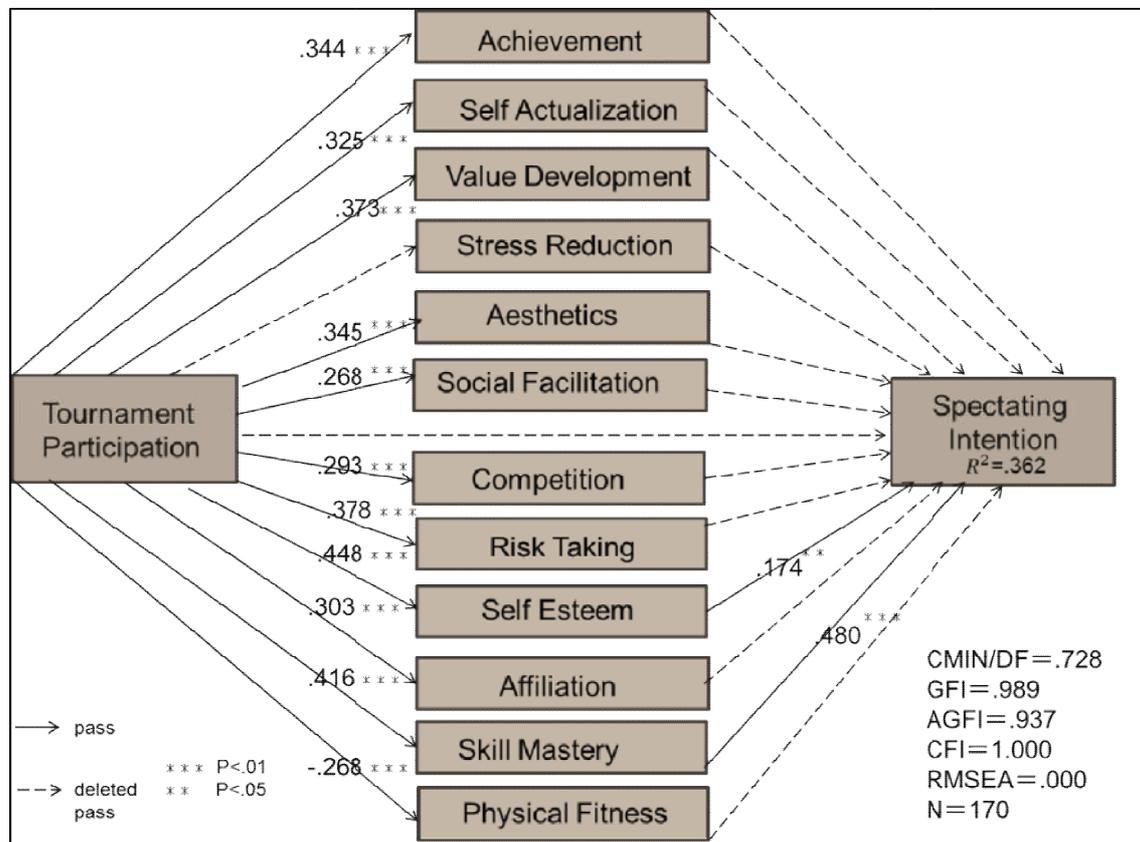


図 5-2 Model II (Result)

図 5-1 に対し共分散構造分析にて分析を行い、推定値の有意確率が 0.1 以上(非有意)となったパスを全て削除(deleted pass)したものが、上の図 5-2 である。

小塩(2008)¹⁵の指摘によると、GFI、AGFI、CFIが 0.9 以上、かつ RMSEA が 0.05 以下であることが、良いモデルである条件とされている。図 6-2 では、GFI、AGFI、CFI、RMSEA の全ての値が、小塩(2008)の指摘をクリアすることができ、このモデルの統計的妥当性が確認された。「トーナメント参加頻度が高まれば高まる程、Stress Reduction と Physical Fitness を除く全てのテニス参加動機が高まり、またそれらのテニス参加動機(Self Esteem と Skill Mastery)が高まることで、プロテニストーナメント観戦意図が高まっていく」ということを図 5-2 は示している。この結果は、ヒアリング調査の結果¹⁶からも見られた、「自分自身がトーナメントに参加し、ルールや戦術などを理解できるようになることが、プロトーナメント観戦に、より興味を抱くようになることへ繋がる」といった事を裏付けるもの

¹⁵ 小塩真司(2008) はじめての共分散構造分析-AMOS によるパス解析 東京図書

¹⁶ 巻末資料 サンプル 37

でもある。

以上のことから「テニス参加者をトーナメントや競技会に参加させることが、プロテニストーナメント観戦者を増やす為の1つの方法である」という論を示すことが出来た。

なお、図 5-2 において、観戦意図の重相関係数の平方が.362 となっているが、このモデルは、大会参加頻度やスポーツ参加動機からのみで、スポーツ観戦意図を説明しようとしたものである。従って、観戦意図に影響を与える全てのファクターを明らかにしようとしたものではない。ヒアリング調査の結果¹⁷から見ても、観戦意図などには有名な選手(スター選手)の存在等が大きく影響している可能性が高く、観戦意図を完璧に説明するモデルを作成する為には、そのようなファクターも視野に入れなければならないだろう。その部分に関しては、今後の研究の課題とも言えよう。

最後に、削除したパスの中で、「Social Facilitation → Spectating Intention」のパスは、有意確率 $P=0.136$ とあと僅かで統計的有意性が確認出来る値であった。よって、今後の研究次第(サンプル数の拡大等)で、統計的有意性が確認できる可能性はあると考えられる。

¹⁷ 巻末資料 サンプル 4、8、12 など

第5章 結論

第1節 まとめ

本研究の目的は、「スポーツ参加者のスポーツ参加動機と、スポーツ観戦経験やスポーツ観戦意図との関係性を明らかにすること」と、「スポーツ観戦意図を高め、スポーツ参加者をスポーツ観戦者へと導く方法についての検討を行うこと」であった。

研究の目的を達成するために、先行研究やヒアリング調査などからテニスへの参加動機を明らかにした上で、Model I と Model II を作成した。そして、テニス参加者に対しての質問紙調査を行うことによりモデルの分析を行った。これにより、以下の3点が明らかになった。

①プロトーナメント観戦に行ったテニス参加者と、観戦に行かなかったテニス参加者とを比較した際、観戦に行ったものは **Stress Reduction** と **Physical Fitness** を除く全てのテニス参加動機が大きいことが、統計的に示された。これより、スポーツ観戦経験の有無と、スポーツ参加動機の高さには大きな関連性が存在している可能性が明らかになった。しかし、観戦経験の有無と、**Stress Reduction**・**Physical Fitness** が、全く関連性が無かったことから、「スポーツをストレス発散や健康・体力作りの目的で行っているスポーツ参加者は、それらを主な参加動機としている限りは、スポーツ観戦者となる確率は低い」ということが明らかになった。

ヒアリング調査の結果¹⁸からも覗えたように、テニスをやっている動機として「健康増進、暇つぶし」の部分のみが高いものは、ただ道を走ったり、スポーツジムなどに行って運動したりすることの代わりに、テニスを行っている可能性が高く、彼らをスポーツ観戦者とする為には、**Stress Reduction** と **Physical Fitness** 以外のスポーツ参加動機を、特に高める必要性がある。

②スポーツ参加動機の中でスポーツ観戦意図に強い影響を与えている可能性が高いものは、**Skill Mastery**、**Self-Esteem**、**Achievement** などであった。特に **Skill Mastery** に関しては、3つのテニス環境全てで高い統計的有意性が示されており、「技術的に向上したい」という動機を向上させることによって、観戦意図も向上させることが可能であることが示唆された。よって、如何に「技術的に向上したい」という動機を、スポーツ参加者に強く持たせることが出来るかが、その競技のスポーツ観戦者を増やすための鍵となる可能性が高いと言えるだろう。

¹⁸ 巻末資料 サンプル 22、74 など

③最後に、それらのスポーツ参加動機を高める 1 つの方法として、「スポーツ参加者のトーナメント(大会)出場頻度を高めれば良い」ということが明らかとなった。また、「スポーツ参加者のトーナメント出場頻度の向上が、スポーツ参加動機の向上に繋がり、その結果スポーツ観戦意図の向上に繋がる」ということが、共分散構造モデルの分析によって示唆された。スポーツ観戦者を増やす 1 つの方法として、スポーツ参加者を如何にして、トーナメントや大会に出場させるかといったことが重要であると言えるだろう。

以上のことから、健康維持やストレス発散を主な目的としてテニスを行っているスポーツ参加者(そのままでは観戦者となる可能性が極めて低い者)に対し、「試合に出場させる」という介入を行うことによって、Skill Mastery などの参加動機を向上させ、観戦意図を向上させていくことの有効性」を示唆することができた。本研究は、この介入の予備調査として位置づけることが可能であろう。

2 節 研究の限界と今後の課題

本研究では、「参加人口は多いが観戦人口は少ないスポーツ」として、テニスを事例とすることで論を進めてきた。テニスと同じように「参加人口は多いが観戦人口は少ない」といった背景を持つ、バドミントン・卓球・陸上などのスポーツに対しても、本研究から得られた知見は適用できる可能性は高いと考えられる。しかしながら、似通った背景が存在するから、本研究の知見がそのまま適応可能であると断定することは当然出来ず、そのような点から見ても今後テニス以外の競技にて、同様の研究を行っていくことは必須であると考えられる。

また、本研究においては、サンプル数に関する問題点も存在する。本研究では、1 ヶ月という期間内で、筆者が単独でアンケートの配布・回収を行ったため、調査表の総計が約 300 程度にしか伸びなかった。母集団の問題も考えると、より多くのサンプルが必要とされた可能性も否めない。この部分も今後の研究の課題と言える。

さらに、本研究では「テニス観戦」を「楽天ジャパンオープン、もしくは東レ・パンパシフィックオープンを試合会場で直接観ること」と定義したが、このことから、本研究の知見は、上記 2 大会のような規模の大きい大会にしか適用できない可能性がある。テニス・バドミントンなどのスポーツにおいては、そのような大規模な大会を開催出来ないこと自体に、観戦者が少ない原因が存在する可能性もあり、より小規模な大会に対しても本研究の知見が適応可能かどうかについては、今後研究が必要である。

最後に、本研究では「試合に出場させる」ことへの重要性について触れたが、スポーツ参加者を競技会などに強制的に参加させるのではなく、あくまで彼らが自発的に競技会へ参加するようになることが肝要である。そのためには、参加者にとって魅力のある大会作りが必須であり、そういった研究が、今後必要不可欠であると言えよう。

第6章 今後の展望

今回の研究で、共分散構造モデルを分析した際、**Social Facilitation** から観戦意図のパスが、僅かに有意水準を満たすことが出来ずに、削除されたということは第5章でも述べた。では、「もしパスを削除しなかったら」どのような結果になったのであろうか。**Social Facilitation** から観戦意図のパスを削除せずに、共分散構造分析を行うと以下のようなになる。

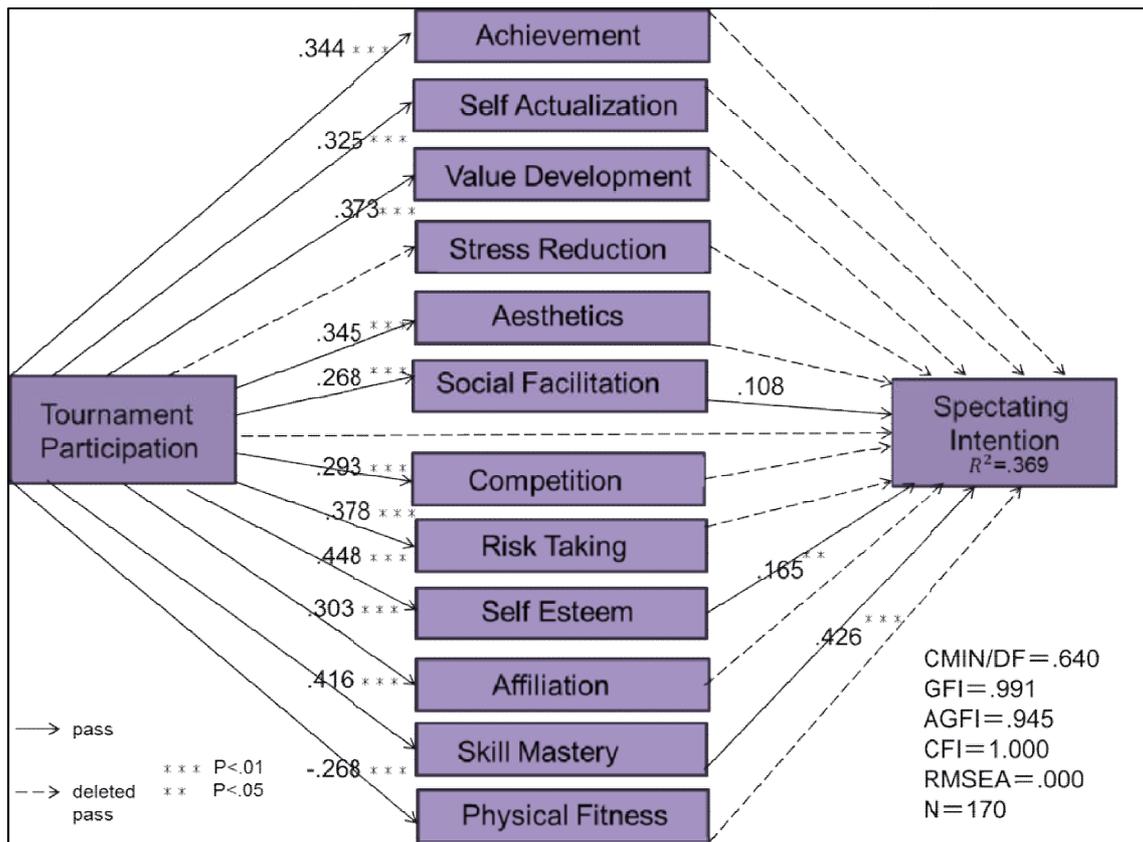


図 7-1 共分散構造モデル(Social Facilitation から観戦意図のパスに着目して)

図 5-2 で分析したモデルと比べると、**Social Facilitation** からのパスを残したことにより、CMIN/DF の値が減少し、GFI、AGFI、R² 乗の値が増加している。つまり、モデルとしては **Social Facilitation** から観戦意図のパスを残した方が、図 5-2 で示したモデルより優れているという事になる。ここから、**Social Facilitation**(スポーツを通じた他者との交流)は、観戦意図に影響を与える可能性が高いと考えることができる。

Social Facilitation の向上が観戦意図の向上に繋がるということから、例えば「テニス参加を通じて親しくなった仲間と、交流を深めたいからプロトーナメント会場に足を運びたい」といった可能性を分析していく事も可能である。事実、ヒアリング調査の結果において「友人と一緒に観戦に行った」というデータが幾つか見られた。このことから、**Social**

Facilitation を始めとしたスポーツ参加動機と、スポーツ観戦意図の関係については再度検討が必要であろう。

また、本研究ではスポーツ参加動機を高めるドライバーとして「自身の大会出場頻度」というものを使用したが、これはあくまで手段の 1 つでしかない。大会出場頻度以外にも、スポーツ参加動機を高めるファクターは存在すると考えられ、それを発見していくことが、スポーツ参加者をスポーツ観戦者へ導くために、今後重要なテーマの 1 つでもある。

資料

資料 A 第 1 章でのスポーツ観戦者数

2009 年度、テニス・バドミントン・卓球・ゴルフの主要大会観戦者数

テニス

ジャパンオープン 約 60000 人

東レ・パンパシフィックオープン 約 50000 人

ニッケ全日本選手権 約 20000 人

※全日本選手権の次に規模が大きい「イザワクリスマスオープン」は2008年度をもって開催中止となった。

参考

<http://rakutenopen.rakuten.co.jp/>

<http://www.toray.co.jp/news/event/nr090312c.html>

<http://alljapantennis.jp/nikke84th/index.shtml>

バドミントン

ヨネックスジャパンオープン 2009 約 20000 人

次に規模の大きい全日本総合選手権は「オグシオ」効果による 2008 年度の約 8300 人が最多である。

参考

<http://istyle.seesaa.net/article/109925033.html>

http://www.yonexopenjp.com/yoj_2009/

卓球

最も大きい「ジャパンオープン・萩村杯 2009」が約 9000 人だったため、該当大会はなし。

参考

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500400/sinchaku/210615.htm>

ゴルフ

東建ホームメイトカップ 37427 人

つるやオープン 22134 人

中日クラウンズ 46124 人
UBS 日本ゴルフ選手権 24606 人
三菱ダイヤモンドカップ 20762 人
サン・クロレラ クラシック 22724 人
VanaH 杯 KBC オーガスタ 20223 人
ANA オープンアジアパシフィック 22974 人
パナソニックオープン 37104 人
コカ・コーラ東海クラシック 27689 人
日本オープンゴルフ選手権 45525 人
ブリヂストンオープン 27761 人
マイナビ ABC チャンピオンシップ 25766 人
三井住友 VISA 太平洋マスターズ 30307 人
ダンロップフェニックス 23433 人
カシオワールドオープン 20407 人
ゴルフ日本シリーズ JT カップ 32810 人
スタジオアリス女子オープン 21192 人
ライフカードレディスゴルフトーナメント 26234 人
ワールドレディスチャンピオンシップサロンパスカップ 26408 人
中京テレビ・ブリヂストンレディスオープン 23703 人
サントリーレディスオープンゴルフトーナメント 31513 人
NEC 軽井沢 7 2 ゴルフトーナメント 21428 人
ゴルフ 5 レディスプロゴルフトーナメント 20126 人
日本女子プロゴルフ選手権大会コニカミノルタ杯 32797 人
マンシングウェアレディース東海クラシック 20195 人
日本女子オープンゴルフ選手権競技 34643 人
樋口久子 IDC 大塚家具レディスミズノクラシック 20153 人

参考

日本ゴルフツアー機構 <http://www.jgto.org/>

日本ゴルフ協会 <http://www.jga.or.jp/jga/jsp/index.html>

資料 B 第 2 章でのヒアリング調査結果

ヒアリング調査の結果、75 人からヒアリングデータが取得できた。内訳としては、T テニスクラブのスクール生またはビジターが 38、株式会社 T に所属するコーチングスタッフが 23、公共コートでのテニス参加者が 14 であった。A もしくは B に明確な回答を得られなかった結果もあり、その場合は A もしくは B のみ記載した。なお、ヒアリングの結果において、一部匿名性が必要と考えられる点が存在した為、その部分に関してはイニシャルのみ表記した。

T テニスクラブ(スクール生)

1 テニススクール生(女性)

A 試合は昔出たことはあるけど、今はもう出ない。試合観戦もありませんね。一緒に行く人がいないので。

B テニスが好きというのと健康維持。他に興味がないというのものもある。水泳とかは 1 人でやらなければならないけど、テニスはダブルスなら 4 人だし、コミュニケーションツールとして。

2 テニススクール生(男性)

A 観戦の経験はないですね。機会がなかったのです。

B ストレスとかを発散させるためです。

3 テニススクール生(女性)

A 観戦には行ったことないです。理由としては、私は観るのはあんまり好きじゃないんですよ。やるのが好きなんです。

B 楽しいから。それから上手になりたいから。あとちょっと変わった理由なんですけど、テニスやっていると格好いいから。どういうことかという、世の中の女性って、大方はテニスをやってないんですよ。グルメとか化粧とかじゃなくて、私はテニスに走ってるのよ、ちょっとそこらの女性とは違うよと。勇ましく見えるような気がするからです。

テニススクール(男性)

A 観戦は東レならありますよ。無料でチケットを貰ったので。自分のテニスに生かしたいなど。ただ、自分から行こうとはなかなか思わないですね。情報が入ってこない、というか調べるのが面倒で、気付いたら終わっていたというケースが多い。知っている選手が日

本人にあまりいないし。

B まずは、健康の為ですかね。やってて楽しいし。後はレベルアップしたいってのもあります。

4 テニススクール生(女性)

A ジャパンオープンも東レも行きましたよ。友達に誘われたんです。錦織圭が見たかったってのもありますけど。後はフェデラーに騙された。来るって言うから行ったのに、結局欠場しちゃってがっかりしました。

B なかなか上達しないので、上手になりたいからというのがあります。後は、気持ちよく打って、気持ち良く帰りたいってのがある。ゲームで勝てれば気持ち良いですね。後は運動しないと太るので。

5 テニススクール生(女性)

A 観戦は両方とも行きましたよ。理由としては、やはりトッププレーヤーを見たいからというのがありました。

B 建前としては、技術の向上、それから親睦を深める活動として、というのがあります。本音としては、試合で勝ちたいというのや、ロブを叩きつけて恰好よく決めたいなどがありますね。

6 テニススクール生(女性)

A ジャパンオープンはいつも行きますよ。理由は、主人もテニスをやっていて、主人が好きなのでそれで。後は、有名人を見たいというのがあります。予選なんか結構おすすめですよ。チリッチなんかも、この前まで予選にいましたし、そーゆー無名の時にサインなんか貰っておくと良いかも。

B 健康の為と…あとは主人がやっているからです。

7 テニススクール(男性)

A ジャパンオープンも東レもないですね。理由としては行きたかったが時間が合わなかった。ただ、全日本選手権は見に行きましたよ。やはりプロが一体どういうプレーをするのか、見て参考にしたかったの。値段も無料でしたし。

B 健康のためと、あとは楽しいから。

8 テニススクール(男性)

A 東レは去年行きましたよ、嫁と。杉山のラストマッチを見ようと。もともと大阪にいたんですが、その頃はTVで見るものってイメージが強くて観戦経験は無かった。で、東京に来て、まあプレーに生かしたいなと、杉山のサーブを。プロを見てみたいなと思ってましたし。有明でやってるやつも見に行きたいですね。アップを見てるだけでも楽しいし。

B 強くなりたいってのと、試合で勝ちたいってのですかね。学生の時、一つも勝てなかったんで。そのリベンジを。あとは目標があった方が楽しいし、だからそれを目標にしてるだけかもしれないですが。

9 テニススクール生(女性)

A 主人と東レには行きましたよ、去年。理由としては有名な選手が見たかったの。知っている選手がいなければ行かないと思います。

B 肩こりがあるので、週1の運動で防ぐというのが目的ですかね。あとは楽しみだからですかね。自分の出来ることで。

10 テニススクール生(女性)

B 家族がやっていて、一緒にやっているというのがあります。あとはテニス部に入っていて、そのまま今もってのがあります。あとはロディックが恰好いいからかな。

11 テニススクール(男性)

B もともとは卓球やってたんですけど、走って打つのが好きなので。やれば上手くなるし、上手くなると楽しいじゃないですか。後は、会社以外の友達が増えるという所ですかね。

12 テニススクール(男性)

A ジャパンオープンに行きましたよ。フェデラーと錦織が見たかったんですけど、来なかった。東レは行ったことないですね。女子だからというのもあるし、あとジャパンオープンと時期がかぶってますよね。あとは一緒に行く人がいないってのもある。待ち時間があるし、人がいた方がいいです。

B 楽しいから、体力向上、ストレス発散、あとは、暇つぶしですかね。試合は2回くらいでましたよ。

13 テニススクール生(女性)

A 観戦はジャパンオープンと東レ、両方とも行きましたよ。理由としては、テニスをやり始めたから、テニスの試合を見てみたくなったというのがありましたね。

B 最初は体を動かさずって目的だけだったんですけど、回りの人が試合などに出るようになって。それで自分も出てみるようになったら、もっと上手くならなきゃとか思うようになった。

14 テニススクール生(女性)

A 区民大会は出たことがありますよ。去年シングルスに出場しました。ジャパンオープンは観戦に行ったことがないですね。お金がかかるし、チケットとってまでは行けない。東レは何回か行ったことがあります。家が近いし、見たかった。チケットは貰いました。3階とかでも、TVで見るよりずっと良く見える。TVだと良くわからないですよ。マネできるわけじゃないんですが、でも楽しいです。それから、去年、全日本選手権も行きましたよ。クルム伊達公子が見たかったんです。優勝しましたよね。面白かったです。

B 同窓会でやったりするんですよ。で、やったりしてると話せるじゃないですか。話とか苦手なんですけど。だから、テニスを通してコミュニケーションをとれるというのがあるかもしれません。テニスで話してるというか。

15 テニススクール(男性)

B 健康の為と、あとは楽しいからです。

17 テニススクール(男性)

A 去年の東レの決勝も行きましたし、楽天は予選も見に行きました。やはりTVには無い視点で見ることが出来るのが良いですよ。斜めからとか後ろから横からも見ることが出来ますし。「意外とボールが低いんだな」とか分かるので勉強になります。フォーム綺麗になったでしょ？あ、練習を見るのも好きなんです。凄く勉強になります。

B もともとサッカーをやりたいだったんですけどね。自宅がスポーツセンターのそばにあって、サッカーを見ていたら、テニスコートでテニスをしている年配の人を見て、これなら一生できそうだなと。始めてみたら楽しくなりました。

18 テニススクール(男性)

A 東レは何度か行きました。理由としては、やはり良いイメージを貰いに行くというのが

大きかったです。サーブのフォームなど格好いいなと思いますし、実際見に行ったらサーブが良くなったんですよ。生で、選手の打つボールのスピードとか、飛んでいくボールの音を聞くと凄いなと思いましたね。ただ、ジャパンオープンには行ったことがありません。やはり我々社会人は、土日しか観戦に行けないので、チケット料金の高い決勝戦しか見ることが出来ません。家族サービスということを考えると、テニスの試合は温泉旅行に匹敵する出費なので、そうそう行くことは出来ませんね。

B 一言で言うと、テニスが好きだから。楽しいし、好きだから。試合に勝ちたいとか色々あるのだが、最終的にはテニスが好きだから、という所に戻ってくる。

19 テニススクール(男性)

A 観戦は無いですね。行って見たいとは思いますが、行く機会が無かったって本当それだけです。TVで見るとはたまにあります。行ってみたいとは思いますが、勉強になるだろうし。

B まずは運動不足の解消ですね。デスクワークが多いので。あとはもともと部活でやっていたというのがありますし。最近では、会社以外での繋がりを作れるからというのが目的ですかね。仕事と関係ない所での繋がり、そういうのが面白いなど。その2つがメインですかね。

20 テニススクール生(女性)

A 観戦は、昔は行きましたけど、最近は全然行きません。お金が高いし。割引券などがあれば行きますよ。コーチがチケットくれれば行きますが。

21 テニススクール生(女性)

A 観戦は行ったことがないです。行く機会がないんです。あぁいった試合は1人で行って面白くないじゃないですか。誘われないと難しいですよ。チケット取るのも大変だし。

B 運動する機会を作るため。あとは上達してくると楽しいし。友達もできますし。

22 テニススクール生(女性)

A すごい昔は行きました。旦那が好きだったので。やはり1人では行けないですね。誘われないと。チケットがあれば行きますけど。コーチがチケットくれるなら行きます。

B 健康維持と、やっぱり上手になりたいからやっていますよ。楽しいし、やっぱりジムとかだとダメなんです。いつでも行けるっていうのが。結局いかないし。

23 テニススクール生(女性)

A 観戦にいったことはないです。機会がないので。

B 惰性かな。運動不足なので、その解消とか。気分転換などです。

24 テニススクール生(女性)

A 観戦に行ったことはありません。理由はよく分かりません。

B 健康の為とか、後は友達がやっているのと一緒に。体力作りとか運動不足解消などです、

25 テニススクール(男性)

A 観戦ですか？ないです。どこでやってるかとか良く知らないんで。

B 面白いから。

26 テニススクール(男性)

B 家がテニススクールの近所で、何度か通りかかったんですよ。楽しそうだなと。年配の方もやっていらして、自分でも出来るかなと。健康にも良さそうだし。

27 テニススクール生(女性)

A 観戦経験ないですね。お金があれば行くけど…忙しいし。誘われたら行くかも。

B 定期的に体を動かす。上手くなりたい。楽しいから。

28 テニススクール生(女性)

A 観戦ありますよ。東レ、ジャパンオープンともに。上位の上手い人のプレーを見てみたいといううのが動機です。

B 理由としては、運動したい。体を動かしたい。上手くなりたい。腰痛持ちなので定期的に。

29 テニススクール(男性)

A 観戦はないです。

B 楽しいから。兄と親がやるから。

30 テニススクール(男性)

A 観戦なし

B 好きだから。楽しみ。

31 テニススクール生(女性)

A 観戦いったことないですね。理由としては、興味がないからかな。

B テニスをやってる動機としては、健康維持の為です。

32 テニススクール(男性)

A ジャパンオープンとかは行ったことないんです。行く機会がないので。機会があれば見たい。ただ、大学時代、テニスのサークルに入っていて、卒業旅行で「テニサーっぽく」ということで全米オープンを見に行きましたよ。

33 テニススクール生(女性)

A ジャパンオープンは行っていましたよ。実は以前 AIG に勤めていて、無料でチケットを貰っていました。メインスポンサーが去年から楽天に変わりましたが、それから行かなくなりました。東レはありませんが、語学留学していた際に、ウィンブルトンに行ったことがありますよ。理由は、ミーハーな気持ちですかね。

34 テニススクール(男性)

A 試合観戦はありません。見るのあんまり好きじゃないんです。

B ダイエットとか、ストレス解消とかですかね。

35 テニススクール・ビジター(女性)

A ジャパンオープンはありませんが、東レなら観戦に行ったことがあります。高校生の時、招待券をたまたま貰ったので行きました。1度プロの試合を見てみたいというのがありました。

B 目的としてはコミュニケーションの一環としてやっています。

36 テニススクール・ビジター(女性)

A 観戦はありません。理由はよくわかりません。機会がないから。

B テニスをやる目的は、会社のサークルでみんなと楽しむためです。

37 テニススクール・ビジター(男性)

A テニスの試合は見に行くよ。今年も行くと思うし。海外に行ってまで見ようとは思わないが。動機としてはやはり、自分が関わっているスポーツで上手い人のプレーを見たい。自分の技術向上の為。また、自分が関わっているスポーツで、上手い人のプレーを見ることで感動を覚えるというのもある。野球が視聴率が高いのは、まずルールがわかるってのがあると思う。小さい頃からやっていたというのがあるかもしれないが、とにかくルールが分かり、駆け引きとかも分かる。初心者はどう観戦へ持っていかってところが大切だろうな。ピラミッドの底辺は初心者なんだから。試合に出させるとか、クラスで対抗戦をやるとか。

B 今は試合に出るからその為かな。社会人になると、モチベーションが無くなって目標がなくなるから、試合とか出ないと、月 1 回くらいになって運動するだけって事になる。試合とか目標がないと続かないよ。やっぱり土日潰すわけだから、好きってのもあるしな。

38 テニススクール・ビジター(男性)

A ジャパンオープンに行ったが東レは行ったことが無い。女子の試合は男子と比べて迫力が無く面白くないので。足も遅い。それでも、エナンやウィリアムスとかの試合は面白いと思う。ただ、東レにはそういった本当の意味でのトップ選手が来ているイメージがない。男子の試合はやはり面白し、見たいと思う。年に 1 回しか、そのようなレベルの高いテニスを見る機会がないので。テニスをやらない人なら TV でも満足できるのかもしれないが、テニスをやる人にとっては、間近で見れるのは貴重な経験だと思う。また、フットワークの有り得なさに驚いた。スイングも速く、携帯でインパクトの写真を撮ろうとしたが、速すぎてスイングが既に完了していた。あれは TV では分からないと思う。実際、プレーをする人にとっては、現在の自分のレベルとプロのレベルを比較できるというのも大きく、そこも観戦において面白い点だ。好きなプレーヤーを間近で見たいというのも観戦への大きな動機だった。最後に、試合そのものを見て面白いと感じるのも動機としてあった。生の試合、つまり本気でやりあっている試合というのは、ストーリーがあって面白い(ジャッジで揉めていたりするのを見たり等)。

B 体を動かす楽しさ。テニスで仲間とか広がる。ふれあいが楽しい。自分でこう、やった分だけ覚えたりする。技術の習得が楽しい。試合とか競争とか勝負事として楽しい。

T テニスクラブ(スタッフ)

39 スタッフ(男性)

A 去年の楽天オープン行きましたよ。プロの試合を見たかったからです。やはり、上手い人のプレーを見て参考にしたいというのがありましたので。東レは女子の試合なので、行ったことがないですね。

B 楽しい。友達が出来る。違う人と会えるから。人と競えるから。

40 スタッフ(男性)

A 毎年欠かさず行ってますよ。やはり海外の選手を見たいですからね。ボールの速度とか、日本人にないものを持ってますし。普段なかなか見れないので。自分のテニスの為に、良いイメージを持ちたいというのがあります。東レも行ってますよ。女子でも日本では大きな国際大会少ないですしね。理由は男子と似ています。

B 健康維持。ダイエット。練習で楽しくやりたい。ジム行ったりして追い込んでとかやりたくないし、テニスやってて自然に。試合に出るのが好きだから。その為に練習して、勝ったら楽しいからまたやる。テニスやってなかったらラーメンも食べれないし、酒も飲めない。

41 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンは、生徒さんに誘われて行きました。誘われなくても行ったと思いますが。やはり良い試合が見たいので。なぜ良い試合が見たいかと言うと、やはり良いイメージを作れるからでしょうか。自分のプレーに生かすという程ではないですが、やはり日本で見れるトップレベルの大会なので。東レは行ったことがないですね。理由としては、やはり男子の方が面白いからだと思います。具体的には、女子はストロークだけでポイントが終わることが多いですが、男子はネットプレーなど見所が多いですから。

B 上手くできなくてムカつくので上手くなりたいから。目標達成するのに、テニスだったらこの大会でこうとかプロセスがあって、上手く出来れば達成できる。勉強とか理屈とかは簡単だけど、体で結果を出すのは難しいから、まずは自分が生き証人になりたい。

42 スタッフ(女性)

A ジャパンオープンは小学生の頃(10年近く前)に、所属していたテニススクールのコーチに連れられて見に行ったことがある。

東レに関しては、家族や友達と何度も行った経験がある(友達も家族もテニス競技者)。関

東テニス協会に登録をしていた関係で、東レからは案内や割引券が送られてきた関係もあり、見に行きやすかった。

43 スタッフ(女性)

A ジャパンオープンは見に行ったことがある。理由としては、グレードが高くて、有名な選手が多いから、彼らを見たくて見に行った。

東レも昨年見に行ったが、これは杉山愛の引退試合を見たかったので見に行った。ただ、杉山の応援で行ったのに、遅れて1ゲームしか見れないという悲しい結末だったが...

B 全日本選手権に出場するという目標を達成したいから。

44 スタッフ(男性)

A ジャパンオープン、東レ共に見に行った。ジャパンオープンは、自分が世界で活躍することを目標にしているので、世界のトップとの差を見たかった。また、技術の向上や刺激を受けたいという点もあった。

東レは、自分は女子の試合の方が楽しいと感じるので行きました。なぜなら、女子選手(シヤラポアなど)の方が、男子選手より意識が高いように思えたからです。アップや試合への入り方、どういう展開で決めるか(パワーではなく)を参考にしたかったです。

B 楽しいから。家族とか周りの人に褒めてもらえる。達成感もあるし。

45 スタッフ(男性)

A 大阪に住んでいたのでワールドスーパージュニアは見に行きましたよ。将来有名になったプレーヤーもいましたね。客は200~300人くらい?あまり入っていませんでした。ジャパンオープンや東レは行ったことないですね。やはり大阪だったので。遠い。今は東京なので、行ってみたいとは思いますが。

B 健康の為、肥満防止の為ですね。あとはストレス発散とか楽しいからです。また、会員さんとの繋がりとか出来るし、コミュニケーションですね。

46 スタッフ(男性)

A 楽天オープン行きましたよ。理由としては、TOP プレーヤーの試合が見たいというのがありましたね。自分との差を見たいというか。東レはないですね。女子だからかというのが理由です。

B ノーリーズンコココーラですね。それがマイライフだからですよ。強いていえば楽しいからですかね。

47 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンに行ったことあるんですけど、5年くらい前なんですよ、それは友達に誘われて行きました。試合見るのあんまり好きじゃないんです。東レもないですね。特別行きたいとは思わなかった。

B 楽しいから。自分で考えたりできる。集団競技が苦手とかあまり好きではない。テニスでは、試合やるのは1人だし、それくらいならオーケー。

48 スタッフ(男性)

B 好きだから。

49 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンは2回行きましたよ。3000円でチケット譲ってもらって。フェデラーVS 貴男とか見たかった。東レはないですね。チケットが高い。安ければ行く。

50 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンは何度か行ったことあるかな。アカデミーで行ったんだけど、凄かった。フェデラー見たかったのもあるし。東レは行ったことないな。機会がないってのもあるし、時期が合わない。タイミング。全日本は何度も行ったよ。Kさんの応援とかで。

B テニスをやっている目的としては、最初は強くなりたいからやってて、今は会社に感謝してるからかな。試合とか出させて貰って感謝してるし。会社に貢献したい。後はやっぱり好きだからだよ、テニスが。

51 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンはありますよ。スタッフとしてですが。グロージャンを見たかったんですよ。面白かったですよ。東レはないですね。行こうと思ったことはあったのですが、予定があつたりして行けなかった。後はやはり女子の試合なので。行くなら男子かなと。やはり男子の方が面白そうだから。

B テニスをしている目的は、好きだからというのと、テニスをするのがあたりまえで、それが生活の一部だからですね。やるのがあたりまえというか。

52 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンは、大学入ってから2度行きました。去年も行きました。やはり男子のトッププロを見たかった。迫力があるしスピードもある。真似したいから行ったというよりは、レベルが高いものを見たいと思ったからです。東レは行ったことないですね。女子の試合に興味ないんで。理由としては、自分が男だからですかね。全日本は行ったことありますが、それはたまたま自分の試合が隣でやってたからで、そうじゃなきゃ行きません。

B 楽しいから。上手くなりたいから。暇だから。小さい頃からやってるから。

53 スタッフ(男性)

A 去年楽天オープン行きましたよ。動機としては、やはりトップ選手を生で見れるっていうのがある。あんまり見れないし。TVで見てもつまらない。感覚というか、自分でもテニスやってるんだし、それに近い感覚だから。東レはすごい昔に1回だけあるけど、最近は全く行ってない。やっぱり面白くない。女子だからってのもあると思うけど、盛り上がってないと思う。

B 楽しいから。ボールも変化するし。動きがあるし。反応したり。やってて飽きないし。仕事だからってのもあるが。

54 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンに行ったよ。外人見たかったし。目当ての選手とか。日本人には出来ないテニスをやってくれる。東レは行ったことないから、時期が合わないの。ただ、昔やってたトヨタプリンセスカップって女子の大会には行ったよ。セリーナとかドキッチを見たかった。理由としては、セリーナはかっこいいから。野性的だし。ドキッチはかわいいの。

B 体と心を鍛えるため。Jrを上手くしたいから。成長させたい。自分はテニスコーチで、子供が好きなので。部活でやってたから今やってるってのもあるし。将来違う仕事についても生きるかなと。レッスンをしてて色々な人と知り合いになってくってのもある。

55 スタッフ(男性)

A 観戦は行ったことはありません。見るのが好きじゃないからです。

B 趣味。楽しいから。好きだから。

56 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンは行きましたよ。親が営業の人からチケット貰って。テニスが好きっ

てのでもありますね。錦織とかロディックやブレイクを見たかった。外人とか、ボールを見てみたかった。東レはないですね。女子の試合なので。全日本とか日本リーグとか見に行ったことがありますよ、誘われて。タダだし、また行きたいと思った。

B まずは健康の為です。後は楽しいからかな。それから、上達したいってのもあります。上手くなって試合に勝ちたい。やはり試合で勝ってランキングを上げるという事は自分のステータスにもなりますし。

57 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンを観戦経験があります。兄の友達が券をくれて、タダで観れるというので。タダじゃなければ行かなかったと思う、金が無かったので。5000円未満くらいなら行ったかも。目的としては、何となく。ヒューイットとか、有名選手を見たかった。東レは行ったことないです。女子はいいかなと。

B 楽しいから。あとは大学生活をやっていく上で、打ち込めるものがないと、腐っていきそうで、打ち込めるものがあるのが嬉しいので。後、体も鍛えられるし、外見的に格好よくなりたいので。あと、テニスをしていると人の交流が増えるじゃないですか。そーゆーのが良いですよ。

58 スタッフ(男性)

A 観戦には行かないですね。参考にならなそうなので。

B 自分のできないことをするために、何が必要なのかって考えるのが楽しい。テニスは考えてやらないと勝てないスポーツですよ、絶対。戦術とか人としての考え方とか、人間的なことも学ぶ必要があるし、それで人として成長できるし。あとは純粋に勝ち負けが分かるんで、なんでそうなったのかって原因がはっきりわかるし、あとはそこを直していけばいい。物作るのと同じじゃないですか。考えるのが楽しいです。

59 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンはまだ 15 回くらい行ってますよ。飽きてきました。理由としては外人のプレーが見たいから。東レは一回もありません。女子は興味ないんで。全日本は応援でよく行きますよ。Sさんに連れていかれたってのがありますが。

B 流れでやってます。なりゆき。面白いからとか楽しいからとかじゃないですかね。

60 スタッフ(女性)

A ジャパンオープンがあったと思うよ。それは、ゴーセンのガット張りの研修も兼ねて行ったんだ。あと全豪オープン行ったよ、テニス留学してるときに。理由としては自分の勉強になるからかな。やっぱ日本ではテニス観戦は勉強って感じだけど、向こうではお祭りって感じかな。好きな選手を応援したりね。

61 スタッフ(男性)

A ジャパンオープンは毎年行ってますよ。理由としては、雰囲気が好きだからってのと選手を見に行くってのがありますね。あと、テニスで盛り上がれるってのがいいし。東レはないですね。理由ですか。はっきりいってしまうと女子だからです。

公共コート利用者

62 公共コート利用者(女性)

A テニス観戦は、東レならあります。誘われていきました。高いので迷ったのですが。目的としては、プロのプレーを見たかったというのと、同じ女子で憧れるという気持ちもありました。

B テニスをする目的は、健康維持のためです。

63 公共コート利用者(女性)

A 観戦経験はありません。主婦なので、あまり長時間出ると、子供もいるので。ただ、ダブルスとか参考にしたいという気持ちはあります。自分も試合に出るので。

B テニスをしている目的としては、上達したいからというのと、楽しいからというのがあります。

64 公共コート利用者(女性)

A 観戦経験はありません。理由としては、やはり子供がいるので。縛りがある。参考にする意味でも、行きたいとは思いません。

B テニスをする目的としては、生きがい、ストレス発散、健康の為、楽しいからなどがあります。

65 公共コート利用者(女性)

A 試合観戦はありません。理由としては、日程が合わないとか、後は子供がいるので、世

話をしないといけない。

B テニスをする目的としては、健康維持とか、後は試合に出るようになったので、それに向けての上達の為。

66 公共コート利用者(女性)

A 試合観戦は、ジャパンオープンなら行きましたよ。フェデラーが大好きなんです。フェデラーを見て、もっと分かっていたいとか、試合を見て、格好いいな、あんな風に打てたらと思うのが理由ですね。

B 東レは行ったことはありません。遠いし、子供が小さいから厳しい。TV でなら見ましたが、子供連れてはきついです。

67 公共コート利用者(女性)

A テニスの試合は行ったことないですね。時間が合わなかったり、チケットが取れなかったり。あとは試合が長いので、ちょっと。

B テニスをする目的としては、試合で勝つためです。勝つためにやっています。

68 公共コート利用者(女性)

A プロの試合を見に行ったことはないですね。1回行ってみたいとは思いますが。子供が学校から帰ってくるとか、旦那が仕事をしてるのとか、後ろめたさを持ちながら見に行くというのはちょっと。ただ、勉強をしたいというのはありますし、びっくりしたりするプレーを見たいというのはありますね。

B テニスをしている目的としては、健康維持の為と、やはり楽しいから。球技が好きなんですよ。友達も誘ってくれるし。あとは試合に出るようになったからというのがあります。

69 公共コート利用者(男性)

A 観戦はない。TV で十分だから。あとはきっかけがないからかな。1回くらい行きたいと思うけど。券くれれば行くんだけどね。

B テニスをしている目的は、心身健康、暇つぶしかな。

70 公共コート利用者(男性)

A ジャパンオープンは毎年行っていますよ。理由としてはテニスが好きだから。上手い人がやっているのを見ると、自分も上手くなった気がする。妻から逃げているというのも理由の 1 つですね。東レは、葉書を出したら券が当たった。ヒンギスとか女性でテニスが上手いのもいいですよ。

B テニスをしている目的は、健康の為と、暇つぶしかな。

71 公共コート利用者(男性)

A 観戦経験はない。券くれたら行くけど。

B テニスをしている目的は、健康増進と、仲間がいるからかな。

72 公共コート利用者(男性)

A 観戦は行ったことないね。TV では見るけど。わざわざ行こうとは思わない。

B テニスしてる目的は、健康のためだよ。

73 公共コート利用者(男性)

A 観戦はジャパンオープンなら行ったよ。理由としては、やはり生で見るのは迫力あるし、TV じゃ分からないよね。TV では見れない所が見れるし、雰囲気も臨場感がある。コンサートも CD で聞くと眠くなるでしょ。テニスも同じだよ。

B テニスをしている目的は、心身向上の為かな。試合をするとか、競争目的ではないよ。

74 公共コート利用者(男性)

A 観戦は行ったことない。券があれば行くけどね。

B テニスをしている目的は、健康の為と、暇つぶしかな。

75 公共コート利用者(男性)

A 観戦は経験ないな。理由は特にない。TV でいいと思うから。

B テニスをしている目的は、運動。体の為だよ。

資料 C 質問紙

テニス観戦に関するアンケート

このアンケートは、テニス経験のある方々を対象とし、テニス国際大会観戦経験の有無やその理由について調べようとするものです。ご回答は匿名でいただき、本アンケートはすべて統計的に処理しますので、皆様にご迷惑をおかけすることは絶対にごさいます。以上の趣旨を御理解頂き、どうか率直に御回答を下さいますようお願い致します。

早稲田大学・大学院スポーツ科学研究科 霜島広樹

Q1. あなた自身のことについてお伺いします。

①性別を教えてください。

1. 男 2. 女

②年齢を教えてください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代
7. 70代以上

③テニスの活動頻度(平均)を教えてください。

1. 週1回未満 2. 週1回 3. 週2回 4. 週3回 5. 週4回 6. 週5以上

④テニス大会への出場頻度を教えてください(区民大会、市民大会、JOP大会、草トーナメントなど)。

年間を通して()大会くらい出場

⑤職業を教えてください。

1. 会社員 2. 公務員 3. 管理職・経営 4. 自営業 5. テニスコーチ・テニス選手
6. 自由業
7. 公務員 8. 主婦専業 9. 大学・大学院・短大生 10. 高校生 11. その他
()

Q2. あなたがテニスを行っている動機についてお伺いします。

以下の質問について、各々当てはまる数字に1つだけ○をつけてください。7が「強くそう思う」で、1が「全くそう思わない」になります。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. テニスをする事は、自分に人としての成長を与えてくれると思う・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2. テニスをする事によって、「自分はいままでかいた人間だ」と感じられる・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3. テニスをする事は、何か物事を達成する手助けとなると思う・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4. テニスをする事で、思いやりのある人間になれる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5. テニスをする事で、努力や熱意の大切さを理解することができる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6. テニスをする事で、自分の能力に自信を持つことができる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7. テニスをしていると、負けず嫌いになる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8. テニスをした後は、する前よりストレスが軽くなっている・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9. テニスをする事で、他からは学べないことを学ぶことができる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10. テニスをする事で、自信を感じられるようになる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11. 対戦相手が強ければ強いほど、私はテニスを楽しむことができる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12. テニスをする事で、日々のプレッシャーから解放されることができる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13. テニスをする事は、自分自身を表現する1つの方法である・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14. テニスのプレーには美しさがあると感じる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15. 私はテニスをする際、自分の全てを賭している・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16. テニスをする事は、自分の限界への到達につながると思う・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17. 私は自分のテニスのプレーに、自分の個性・性格を表現している・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18. テニスは、落ち込んでいたり、イライラしている時に最適である・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19. 競争は、自分がテニスに参加する上での、重要な要素の1つである・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20. 私は、テニスのプレーにおける芸術性の追求を楽しんでいる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21. テニスをする楽しみの1つに、危険な状態に身を置けるからというのがある | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22. テニスへの参加は、自分の友人達と時間を共有する機会を与えてくれる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23. 私のテニスにおける目標は、テニスで突出した存在になることだ・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24. 私は、テニスで結果を出したいという強い願望を持っている・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25. テニスをしていると、自分は特別な集団に属していると感じられる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26. 私がテニスをするのは、健康維持の為である・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27. 新たな出会いのチャンスを与えてくれるのが、テニスをする楽しさでもある | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28. 自分の目標を達成する為、高い技術を身につけたいと思っている・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29. 私はテニスでの成功者になる為に、年間を通して努力しつづけるつもりだ・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30. テニスの楽しさは、他の人々とテニスをした経験を共有できることだ・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 31. 体力(筋力、持久力、抵抗力を)向上させたいので、私はテニスをしている・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32. マスターするのが難しい点が、テニスをプレーする面白さでもある・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33. 私は、テニスをする人々との間に、何か絆のようなものを感じる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34. マスターするのが難しいので、テニスをする事は常にチャレンジである・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35. テニスをする人々の中には、ある種の仲間意識のようなものが存在する・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36. テニスをする際自分の体を犠牲にしなければならないなら、それで構わない | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37. 私がテニスをするのは、テニスが健康に良いと感じるからである・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 38. グループでのテニス参加は、社会的な関係を良好にさせることへ繋がる・・・ | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

Q3. あなたは、トップ選手の集まる「ジャパンオープン」あるいは「東レ・パンパシフィックオープン」といったテニスのプロトーナメントを、試合会場で観戦してみたいと思いますか？

強く思う 全くそう思わない

7 6 5 4 3 2 1

Q4. あなたは今年、「2010 楽天ジャパンオープンテニス」あるいは「2010 東レ・パン・パシフィック・テニス」を試合会場にて観戦(TV・インターネットなどを除く)をしましたか？
当てはまる 1～4 の番号に○をつけて下さい。 ※予選の観戦も観戦に含みます

1. 両方とも観戦した
2. ジャパンオープンのみ観戦した
3. 東レ・パン・パシフィック・テニスのみ観戦した
4. 両方とも観戦しなかった

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

【参考】 テニス参加動機に関しては、項目 1、3、16 が「Achievement」、2、6、10 が Self-Actualization、4、5、9 が「Value Development」、8、12、18 が「Stress Reduction」、13、14、17、20 が「Aesthetics」、7、11、19 が「Competition」、15、21、36「Risk-Taking」、23、24、29 が「Self-Esteem」、22、27、30、38 が「Social Facilitation」、25、33、35 が「Affiliation」、28、32、34 が「Skill Mastery」、26、31、37 が「Physical Fitness」となっている。

McDonald(2002)のスポーツ参加動機を翻訳した結果は、以下の通り。

| | |
|--------------------------|---------------------------|
| Risk-Taking→「リスク獲得」 | Stress Reduction→「ストレス発散」 |
| Aggression→「攻撃性減少」 | Affiliation→「社交」 |
| Social Facilitation→「交流」 | Self-Esteem→「名声」 |
| Competition→「競争」 | Achievement→「達成」 |
| Skill Mastery→「技術習得」 | Aesthetics→「美的」 |
| Value Development→「自己成長」 | Self-Actualization→「自己実現」 |
| Physical Fitness→「健康」 | |

引用・参考文献

- Mark A. McDonald, George R. Milne, and JinBae Hong (2002) Motivational Factors for Evaluating sport spectator and participant Markets. *Sports marketing Quarterly*, 11: pp.100-113
- Galen, T. Trail, Jeffrey, and D. James (2001) The Motivation Scale for Sport Consumption: Assessment of the Scale's Psychometric Properties *Journal of Sport Behavior*, 24
- Tokuyama Sagatomo (2009) Examining different characteristics in consumer motivation for participant sport and spectator sport. Doctoral dissertation in College of Education and Human Development University of Louisville
- 松岡宏高 藤本淳也 James, Jeffrey 2002 プロスポーツの観戦動機の構造と測定尺度の開発 日本体育学会大会号 53
- 財団法人日本テニス協会ホームページ: <http://www.jta-tennis.or.jp/index.html>
- 財団法人日本ゴルフ協会ホームページ: <http://www.jga.or.jp/jga/jsp/index.html>
- 財団法人日本サッカー協会ホームページ: <http://www.jfa.or.jp/jfa/>
- 財団法人日本バドミントン協会ホームページ: <http://www.badminton.or.jp/>
- 財団法人日本卓球協会ホームページ: <http://www.jtta.or.jp/>
- 笹川スポーツ財団ホームページ: http://www.ssf.or.jp/research/life_data_03.html
- 早川武彦, 1997 「対談 多様化するこの社会とスポーツ」無限大 PP14-39
- 佐野昌行, 2007 「国際スポーツイベント観戦者の基礎的特性に関する研究」日本体育大学紀要 第36巻2号
- 佐野昌行, 2008 スポーツイベントの観戦動機とその要因に関する研究-国際スポーツイベントに着目して- 日本体育大学紀要 第37巻2号 pp.83-95.
- 小塩真司 (2004) SPSS と AMOS による心理・調査データ解析-因子分析・共分散構造分析まで
- 小塩真司 (2008) はじめての共分散構造分析-AMOS によるパス解析
- 石村貞夫 (1998) SPSS による多変量データ解析の手順
- 原田宗彦・菊池秀夫 (1990) スポーツ参加者のライフスタイルに関する研究 日本体育学研究, 35: 241-251.
- 彦次佳・長ヶ原誠・山口泰雄 (2003) 成人スポーツ参加者のスポーツ・スペシャリゼーションの類型化に関する研究 日本体育学会大会号, 54: 220.
- 高田一慶 原田宗彦 備前嘉文 (2008) わが国の球技系トップリーグ観戦者に関する研究 クラスタ分析を用いた観戦者の分類 スポーツ産業学研究 18

謝辞

謝辞を書くに至って、お世話になった皆様方への感謝の気持ちを表現するのは、修士論文を執筆する以上に難しい作業であると痛感しております。

まず、指導教員である木村先生には、本当にお世話になりました。先生の御指導は、時に厳しいこともありましたが、そのお陰で今の自分があると感じております。自分がこの2年間で成長する事ができたのは、木村先生のおかげです。ありがとうございました。

また、快く副査を引き受けて下さったトンプソン先生、武藤先生に、心より御礼申し上げます。お二人には、ゼミでも大変お世話になり、貴重なアドバイスを沢山頂きました。どうもありがとうございました。

そして、至学館大学の徳山先生にも、大変お世話になりました。徳山先生は、自分とは面識が無かったにも関わらず、様々な相談に乗って下さり、本当に感謝の言葉もありません。ありがとうございました。その徳山先生を紹介して下さった松岡先生の御配慮にも、心より御礼申し上げます。

大学院生の仲間達や作野先生には、ゼミや発表会等で沢山のアドバイスを頂きました。中間発表会で皆様から頂いたコメント用紙は、今でも大切に保管しております。それまで、他人からのダメ出しに耳を貸さない事もあった自分ですが、「自分の研究にダメ出しができるのは、自分の発表をちゃんと聞いていてくれたからだ。せっかくアドバイスをしてくれているんだから、どんな内容でも絶対プラスに変えるようにしよう」と、あの中間発表以降、自分の中で何かが変わったと思います。成長のきっかけを与えてくれたのは、皆様から頂いた、あのコメント用紙だったと確信しております。ありがとうございました。

それから最後になりましたが、調査において、自分に協力をして下さった日本テニス界の皆様、本当にありがとうございました。

この御恩を返すという意味でも、テニスというスポーツの素晴らしさを伝え続け、テニス界・スポーツ界を良くする為に、自分の出来ることを追究し続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

2011年1月12日 霜島 広樹